

ヤツガタケシノブ *Cryptogramma stelleri* (S. G. Gmel.) Prantl

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イノモトソウ科 Pteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。根茎は葡萄、径1 mm、褐色膜質の鱗片をつける。葉は長さ10 cm程度、葉身は1~2回羽状複葉で、下部羽片は3出状に分岐する。やや二形で、栄養葉は卵~長楕円形。孢子葉の羽片、裂片は披針~線形。孢子囊群は円く、反転した薄い葉縁で包まれる。

2. 分布

国外では台湾、中国、モンゴル、シベリア、ヒマラヤ、欧州、北米に、国内では本州（長野県、埼玉県、山梨県、静岡県）に分布する。県内では南アルプス（東岳、塩見岳、東俣、西俣）などに分布する。静岡県の南アルプスは、本種分布の南限であろう。

3. 生育環境

高山帯から亜高山帯にかけての湿った岩上に、コケ類などとともに生育する。

4. 生育状況

静岡県内では、南アルプスの高山帯に稀に分布の記録があるが、ここ近年は生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

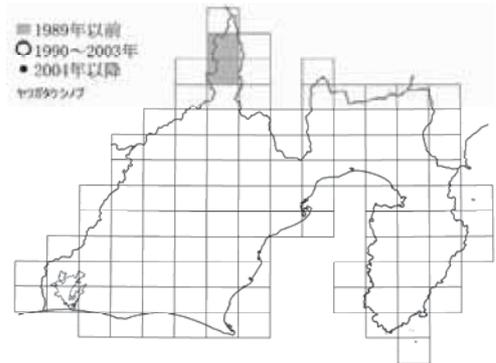
自然の遷移（54）、踏みつけ（51）などによる消失や絶滅のおそれがある。

6. 保護対策

生育地の乾燥化、とりわけ登山道の整備や登山者による踏みつけなどによる環境の悪化を防ぎたい。（細倉哲穂）



長野県 2018年6月2日 室伏幸一



アオチャセンシダ *Asplenium viride* Huds.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎は短く斜上する。小型のトラノオシダの切れ込みの少ない形に似るが、下部羽片はほとんど小さくならない。チャセンシダにも似るが、葉柄、葉軸に翼がない。

2. 分布

国外では台湾、ヒマラヤ、ロシア、欧州、北米に、国内では北海道、本州（群馬県、新潟県、埼玉県、長野県、山梨県、静岡県）、四国（徳島県）に分布する。県内では中部（南アルプス東俣・塩見岳など）に分布する。

3. 生育環境

高山帯、亜高山帯の林中に生じ、多くは石灰岩の岩壁に着生する。

4. 生育状況

県内では近年生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

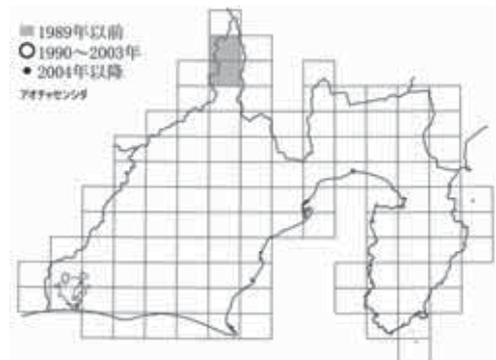
自然の遷移（54）、登山道の整備（71）、登山者による踏みつけ（51）が、減少の主要因であろう。

6. 保護対策

生育地の乾燥化、登山道整備や登山者による踏みつけなどによる自然環境の悪化を防ぎたい。（細倉哲穂）



静岡市 2000年8月28日 杉野孝雄



ニッコウシダ *Thelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。葉は60 cm前後に達し、根茎は短く這う。葉柄には淡褐～茶褐色、卵状披針形の鱗片をまばらにもつ。葉身は披針形、下部はだんだん短くなる。孢子嚢群は中間性で、円腎形、腺毛と毛をもつ包膜で覆われる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部に、国内では北海道、本州（中部地方以北）に分布する。県内では東部（小山町、御殿場市、沼津市、富士市、富士宮市など）に分布する。愛鷹山々麓は、本種の南限自生地である。

3. 生育環境

温帯山地のやや湿った草原、明るい向陽の湿原に生ずる。しばしば群生する。

4. 生育状況

ニッコウシダは近年、各地でとみに少なくなっている。変種メニッコウシダは、富士山系山地にしばしば見られる。

5. 減少の主要因と脅威

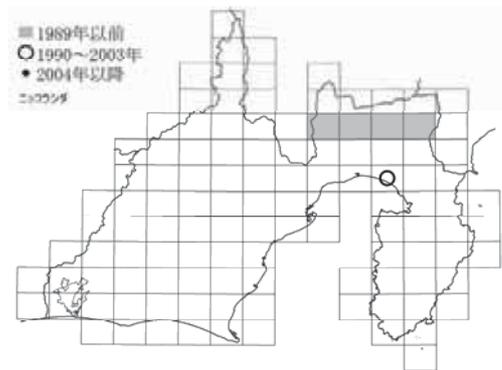
自然遷移 (54) による減少、絶滅、登山者の踏みつけ (51) などによる環境変化がその主要因と考えられる。

6. 保護対策

山林の樹木伐採や踏みつけなどによる自然環境の変化を防ぐ必要がある。(細倉哲穂)



沼津市 1993年8月8日 細倉哲穂



エゾメシダ *Athyrium sinense* Rupr.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。ミヤマメシダに似るが、葉柄は葉身とほぼ同じくらいの長さで赤褐色を帯びることが多い。葉柄下部の鱗片は、茶～茶褐色で、ミヤマメシダの黒褐～黒色の鱗片と異なるが、この両者には紛らわしい個体も多い。ミヤマメシダとの区別が難しい個体が多く、正確な調査が必要である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部に、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。南アルプスは分布の南限というが、生育の再確認が必要である。

3. 生育環境

高山帯、亜高山帯の山地林下、陰湿な場所に生育する。

4. 生育状況

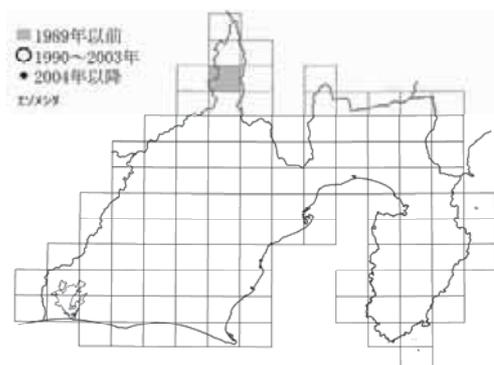
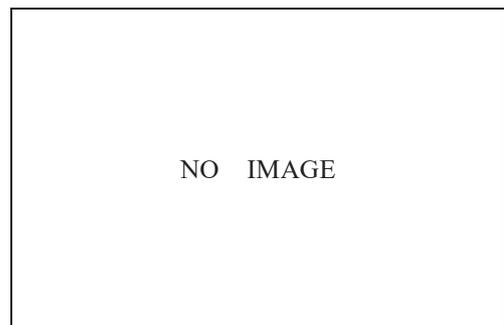
近年、生育地での生育は確認されていない。現地での再確認が必要である。

5. 減少の主要因と脅威

自然遷移 (54) や、登山道での踏みつけ (51) が、減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

踏みつけなどによる生育地の環境変化を防ぐ必要がある。当面、生育地での生育再確認も必要である。(細倉哲穂)



オクヤマワラビ *Athyrium alpestre* (Hoppe) Clairv.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イワゲンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。根茎は太く、斜上、葉柄下部に淡茶色、披針形の鱗片。葉は60 cm前後になり、3回羽状に中～深裂する。羽片は10対ほどで、最下羽片は上の羽片よりやや短い。包膜はごく短い。

2. 分布

国外では北半球の温帯に広く分布し、周極要素の種といわれる。国内では北海道、本州（中部地方、東北地方）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。南アルプスは分布の南限である。

3. 生育環境

亜高山～高山帯の草原や岩場近くに生育する。

4. 生育状況

近年、記録のある赤石岳及び近隣の南アルプスの山中では、生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

自然の遷移 (54)、踏みつけ (51) などによる環境変化が減少の脅威である。

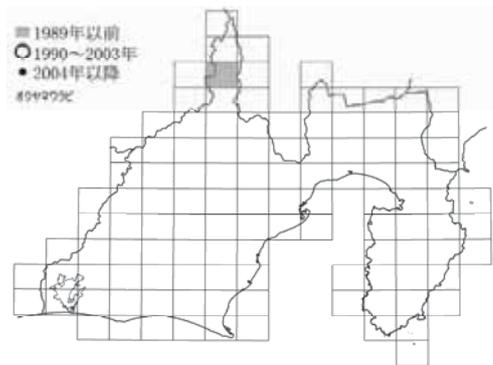
6. 保護対策

登山道の整備などに留意し、踏みつけなどによる環境変化を防ぐ必要がある。

(細倉哲穂)



長野県 2014年8月2日 室伏幸一



ツクシヌワラビ *Athyrium kuratae* Seriz.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イワゲンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。タニイヌワラビに似るが、葉柄基部鱗片は茶～茶褐色（タニイヌワラビは黒～黒褐色）。葉質はやや厚く、小羽片は鈍頭、基部は葉軸に流れることが多い。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（中部地方以西）、四国、九州、八丈島に分布する。県内では伊豆（東伊豆町、西伊豆町、河津町など）に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地の林下、やや陰湿な場所に生育している。

4. 生育状況

伊豆で記録はあるが、近年は生育が確認されない。

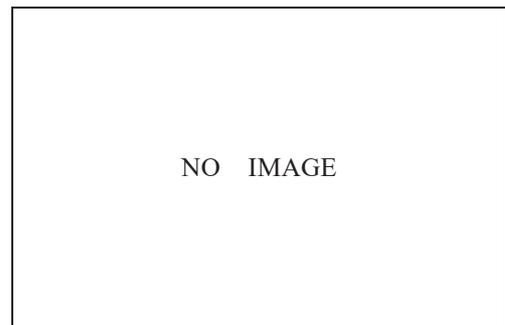
5. 減少の主要因と脅威

山林開発 (11)、林道整備 (24)、河川改修 (13) などによる環境の悪化で減少している。

6. 保護対策

山林伐採、河川改修、林道整備などによる生育地の消失や減少を防ぎたい。

(細倉哲穂)



ヤクカナワラビ *Arachniodes yakusimensis* (H. Itô) Nakaike

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中～大型の常緑性シダ。オオカナワラビに似るが、オオカナワラビに比して葉身細長く、小羽片の切れ込みは深い。外見はコバノカナワラビとの雑種テンリュウカナワラビに似るが、本種は雑種ではない。包膜は無毛で、辺縁は全縁である。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（静岡県）、九州（鹿児島県南部）、沖縄に分布する。県内では伊豆（西伊豆町宇久須）に分布する。伊豆は分布の東限、北限である。

3. 生育環境

暖地の山地林内、陰湿な場所に生育する。

4. 生育状況

伊豆の生育地は、近年生育が確認されていない。生育の再確認が望まれる。

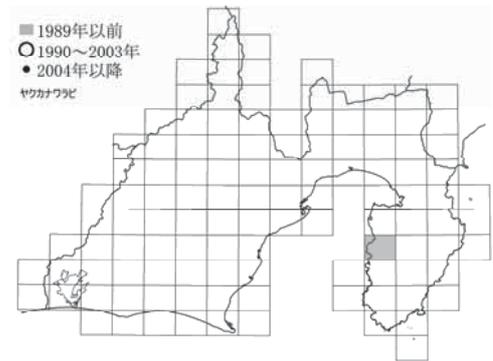
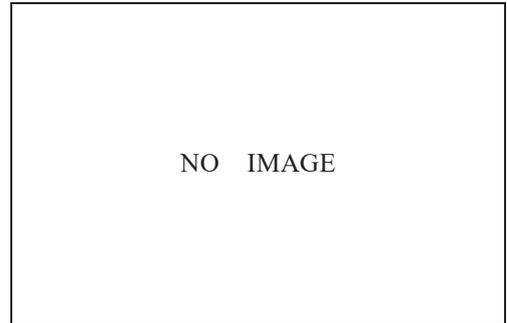
5. 減少の主要因と脅威

山林の伐採や開発（11）、林道の整備や改修（24）などによる生育地の環境変化が脅威である。

6. 保護対策

山林の伐採・開発、林道の整備・改修などによる環境変化を防ぎたい。

(細倉哲穂)



カラフトメンマ *Dryopteris sichotensis* Kom.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。根茎は塊状で、葉は120 cmほどに達する。葉柄下部に広披針形、淡褐色で栗色のまじる鱗片を密生する。オシダに似るが、孢子嚢群は葉身の上半につき、小羽片は間隔やや広く、先端はやや鋭頭である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ロシア東部に、国内では北海道、本州（福島県、中部地方）に分布する。県内では中部（南アルプス荒川岳、樫島、千枚岳、東俣など）に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯森林内で林床のやや湿った所に稀に生じる。

4. 生育状況

亜高山帯森林の林床に生じるが、稀で、オシダのように群生しない。近年は大井川上流の樫島以外には生育が知られていない。樫島では、オシダとの雑種と思われるものも見つかる。個体数も少なく稀なこともあって、近年の生育はほとんど確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

自然の遷移（54）、シカによる食害（52-1）が脅威である。

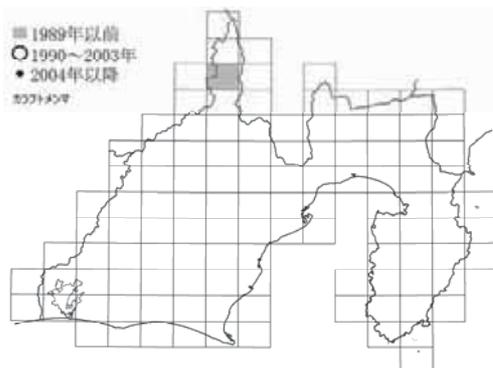
6. 保護対策

生育地、近隣地域、類似の環境の場所での再確認が必要である。確認された場合には、生育環境に配慮した保護が必要となる。

(細倉哲穂)



山梨県 2017年9月3日 室伏幸一



ニオイシダ *Dryopteris fragrans* (L.) Schott

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎は太く短く斜上、葉身は 20 cm 程度に達し束生する。根茎には古い葉が縮んだ状態につき、枯れた葉も残る。葉身は 2 回羽状で、下部羽片はやや短くなる。孢子嚢群は中肋両側に 1 列につき、隣同士重なり合う大きな包膜をもつ。包膜辺は不規則に裂け、腺毛がある。腺毛から分泌する芳香で、和名はそれに由来する。

2. 分布

国外では朝鮮半島東部、中国北部、ロシア、北米の温帯から亜寒帯に広く、国内では北海道、本州（中部地方以北）に分布する。県内では中部（南アルプス小河内岳から小西俣）に分布する。静岡県は分布南限地である。

3. 生育環境

高山の岩壁、あるいは林内の岩上に生育する。

4. 生育状況

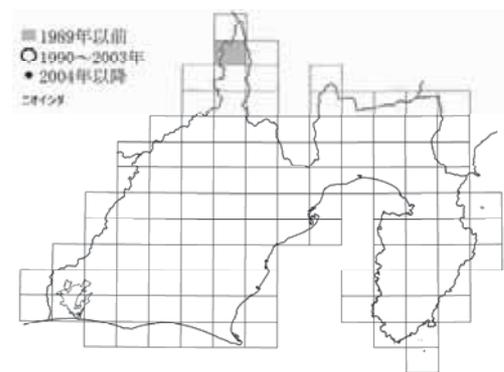
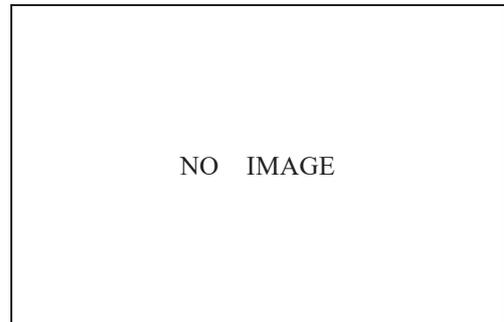
県内では近年の生育は確認されない。県外でもごく稀である。

5. 減少の主要因と脅威

生育の知られた場所の植生遷移 (54) による環境変化、登山者による踏みつけ (51) が脅威である。

6. 保護対策

生育地での再調査による再確認が是非とも必要。また、踏みつけによる影響を防ぐ必要がある。(細倉哲穂)



クロミノイタチシダ *Dryopteris melanocarpa* Hayata

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。ナガバノイタチシダに似て、葉身は 3 回羽状複生し、全形 5 角形状卵形で、上部羽片は急に短くなる。葉柄は黒褐色、下部に広披針形の鱗片をもつ。孢子嚢群はやや中肋寄り、全縁の包膜をもつ。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州（伊豆半島、紀伊半島）、九州南部、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆（西伊豆）に分布する。伊豆は分布の東北限である。

3. 生育環境

暖地山地、林内の溪流近くなど、やや陰湿な場所に生育している。

4. 生育状況

県内では西伊豆町で 50 年以上前の記録がある。近年、確実な記録は確認できておらず、ナガバノイタチシダに酷似し、まだ紛れているものもあることが考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

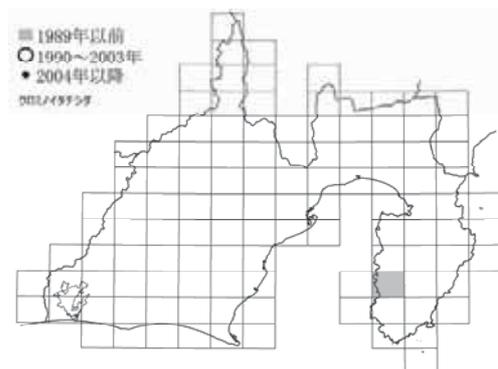
林道の整備 (24)、河川の改修や開発 (13)、山林の伐採 (11) などによる環境の悪化が懸念される。

6. 保護対策

河川の改修、林道の整備、山林の伐採など、注意が必要である。(細倉哲穂)



西伊豆町 2005年4月30日 杉野孝雄



チョウセンゴミシ *Schisandra chinensis* (Turcz.) Baill.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

マツブサ科 Schisandraceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

ツル性の落葉木本。葉は厚膜質で長楕円形、長さ4~10 cm、幅3~5 cm。先は尖り鋭尖頭、基部は鋭形。縁にはまばらな腺状鋸歯がある。葉脈はへこみ裏面に突き出る。雌雄異株。花期は5~7月。径約1 cmの黄白色の花をつける。芳香がある。花被は6~9枚。集合果は長さ5~6 cmで垂れ下がる。果実は赤く熟し、大きさが不揃いである。種子は黒色で球形。

2. 分布

国外ではロシア(アムール、サハリン)、朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州(中・北部)に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山林内と林縁。

4. 生育状況

前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認できていない。しかし、近年南アルプス地域で見られたという情報はあ

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)が減少の主要因であるが、近年はシカによる食害(52-1)が脅威である。

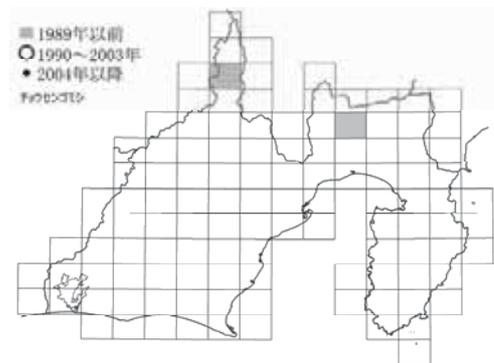
6. 保護対策

生育が確認されたら、シカの食害から保護すること。

(湯浅保雄)



長野県 2013年10月21日 宮崎一夫



ミズバショウ *Lysichiton camtschatcense* (L.) Schott

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。太い根茎がある。葉は広卵形または楕円形で、長柄を含めて長さ80 cmに達する。花期は5~7月。花序は葉に先立って開き、花茎は10~30 cm。仏炎苞の舷部は白色。花は小さく、棒状の花軸上に密につく。淡緑~黄色。花被は4個、雄蕊4本。

2. 分布

国外ではロシア(ウスリー、サハリン、カムチャツカ、北クリール)に、国内では南千島、北海道、本州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

湿原や疎林内の湿地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に富士市の浮島沼で見られたという記載があるが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

気候変動(55)と湿地の開発(15)が減少の主要因と考えられる。

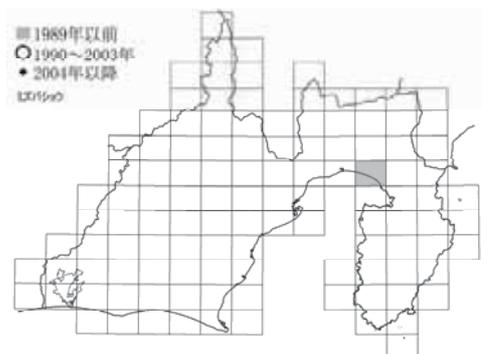
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境に配慮して保全すること。

(湯浅保雄)



山形県 2016年3月31日 宮崎一夫



ハナゼキショウ *Tofieldia nuda* Maxim. var. *nuda*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

チシマゼキショウ科 Tofieldiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 8~30 cm。根茎は短小で走出枝を欠く。根出葉は線形で長さ 10~30 cm。わずかに湾曲し先端は長く尖る。花期は 6~8 月。花茎の上部に総状に白い小花をつける。副萼は 3 裂し、裂片は卵円形。花被片は 6 個で長さ 1~3 mm、線状のへら形。雄蕊は 6 個で花被片より少し長い。

2. 分布

日本固有変種で、国内では本州（関東地方以西）、九州（佐賀県、長崎県）に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の谷筋、または湿った岩壁などに生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には静岡市葵区梅ヶ島の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の環境変化（71）と園芸用採取（41）が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が見つかったら、最適な生育環境を維持するようにつとめること。

（湯浅保雄）



©フォトライブラリ



イバラモ *Najas marina* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の一年草。茎には刺があるものとないものがある。葉は線形 2~6 cm、幅は 2 mm で歯牙がある。雌雄異株。花期は 7~9 月。

2. 分布

国外では世界に広く、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の湖沼、ため池や、稀に河川、水路に生育する。

4. 生育状況

浮島沼、静岡市、小笠山、浜松市などの記録がある。近年生育が確認されていない。

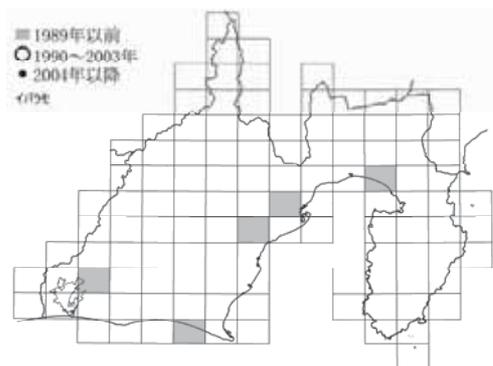
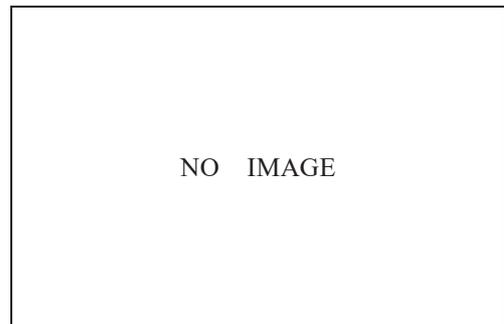
5. 減少の主要因と脅威

湖沼・ため池の埋め立て（12）や水質悪化（31）により減少した。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、その保護が必要である。

（内藤宇佐彦）



センニンモ *Potamogeton maackianus* A. Benn.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の多年草。根茎は泥中を横に這う。茎は細くてまばらに分枝し、水中に直立している。葉はすべて沈水性で広線形、長さ2~6 cm、幅2~3 mm。縁に細かい鋸歯がある。葉の基部は托葉と合着して葉鞘となって茎を抱いている。花期は7~8月。枝先に花茎を伸ばし、その上部に1 cmほどの穂状花序をつける。花には花被はなく、葯隔付属突起が4個で花被片状となっている。雄蕊4個、雌蕊2個。

2. 分布

国外では東南アジア北部に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

低地の池沼や河川、水路などの水中。

4. 生育状況

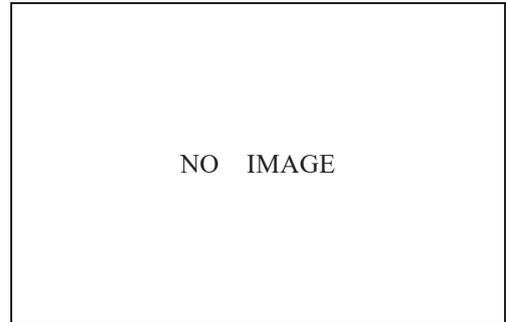
静岡県植物誌(1984)には旧大仁町と富士市の浮島沼、静岡市の鯨ヶ池の記録があるが、その後、生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の開発(12)と河川・水路の整備(13)、水質汚濁(31)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、水質浄化や競合植物の除去など、生育環境を整備すること。(湯浅保雄)



ヒロハノエビモ *Potamogeton perfoliatus* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒルムシロ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の多年草。地下茎は横に這い、1節おきに水中茎を出す。葉はすべて沈水葉で、葉身は広披針形で長さ2~6 cm、幅1~2.5 cm。花期は6~9月。葉腋から3~9 cmの柄のある穂状花序を出し、密に花をつける。花には葯隔付属突起が4個、心皮が4個ある。果実は広卵形。

2. 分布

国外では南アメリカを除く世界の冷温帯から亜熱帯に広く、国内では北海道から九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水路の水中。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に浜松市の記録があるが、前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

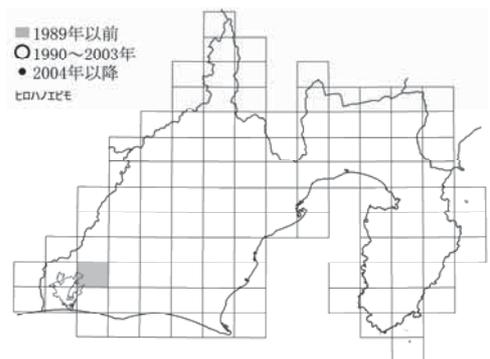
池沼の開発(12)や河川改修(13)、さらに水質汚濁(31)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に必要な環境条件を維持すること。(湯浅保雄)



福井県 2007年6月24日 内藤宇佐彦



シロバナショウジョウバカマ *Helonias breviscapa* (Maxim.) N. Tanaka
var. *flavida* (Nakai) Yonek.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

シユロソウ科 Melanthiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~20 cm。根茎は短く直立し、そこから多数の葉が広がりロゼット状をしている。葉はやや薄く、縁には細かい波状鋸歯がある。花期は 4~5 月。根出葉の中心から花茎を出しその頂に 3~10 個の花をつける。花は白色から淡紅色。花被片の基部はふくらむ。類似のツクシショウジョウバカマの花被片基部はふくらまないで区別できる。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (近畿地方・中国地方)、四国 (東部) に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

山地のやや湿った林内や草地。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に熱海市の日金山の記録があるが、その後確認されていない。日金山には白い花をつけるツクシショウジョウバカマが生育している。静岡県植物誌 (1984) に記録されている本種はその誤認の可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

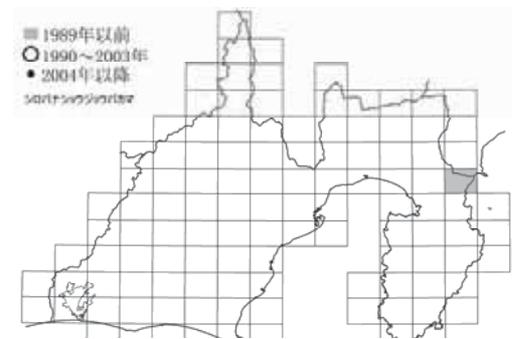
草地の管理放棄 (52) による植生遷移と園芸採取 (41) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育環境としての草地を維持すること。 (湯浅保雄)



三重県 2014年4月2日 宮崎一夫



ヒメイズイ *Polygonatum humile* Fisch. ex Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

キジカクシ科 Asparagaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~50 cm。根茎は細く長い。茎は稜角がある。葉は長楕円状披針形で長さ 4~7 cm、幅 6~30 mm。下面は淡緑色。葉縁と裏面脈上に小突起がある。花期は 6~7 月。葉腋に 1~2 個の淡黄緑色の花を下垂する。花は筒形で長さ 15~20 mm、先は 6 裂する。液果は球形で、径 8~9 mm、黒紫色に熟す。

2. 分布

国外ではロシア (シベリア、サハリン)、朝鮮半島、中国東北部に、国内では南千島、北海道、本州 (中・北部)、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山地や海岸の草地や疎林内。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、御殿場市、富士宮市に生育すると記載があるが、その後、確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) や広葉樹林の人工林化 (71) が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

産地が確認されたら、生育環境を保全し保護すること。

(湯浅保雄)



岐阜県 1989年6月4日 内藤宇佐彦



ヤマアマドコロ *Polygonatum odoratum* (Mill.) Druce
var. *thunbergii* (C. Morren. et Decne.) H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

キジカクシ科 Asparagaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~100 cm。葉の長さは 8~15 cm。下面脈上に細突起があることが特徴とされる。花期は 4~5 月。花筒の長さは 20~25 mm。類似のアマドコロは、茎の高さは 30~60 cm で葉裏の脈上には微細突起があり、花筒の長さは 15~20 mm で区別される。

2. 分布

日本固有変種で、本州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯の山地。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、産地として愛鷹山が載っているが、その後の確認情報はない。

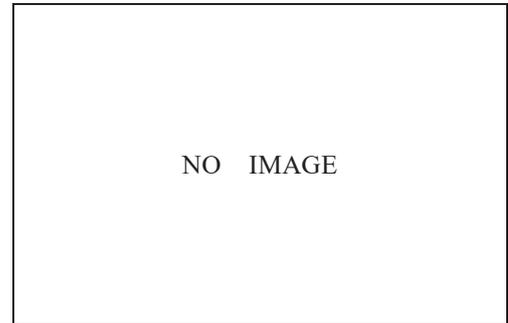
5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11) による生育環境の変化が考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、最適な生育環境を維持し、シカによる食害対策も講じること。

(湯浅保雄)



タマミクリ *Sparganium glomeratum* (Beurl. ex Laest.) L. M. Newman

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) (要件) 変更コード9,18

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

抽水性の多年生。高さ 20~120 cm。地下茎は横に這う。葉は水中から抽出して、2 列生し線形で、断面は三角状である。花期は 6~8 月。雌雄同株。花茎は分枝せず、下部に雌性の頭花を 3~7 個つけ、腋生と腋上生がまじり、上に雄性の頭花を 1~2 個つける。集合果は緑色の球形で径 10~15 mm。果実は広卵形で長さ 4 mm、中央部分でくびれる。近縁種のヒメミクリは果実が倒卵形で長さ 4 mm、くびれはない。

2. 分布

国外ではアジア、ヨーロッパ、北アメリカに、国内では北海道、本州 (中部以北) に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

標高の高い山地のため池や池沼、水路に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、袋井と服織 (静岡市葵区羽鳥) の記録があるが、その後の確認情報はない。

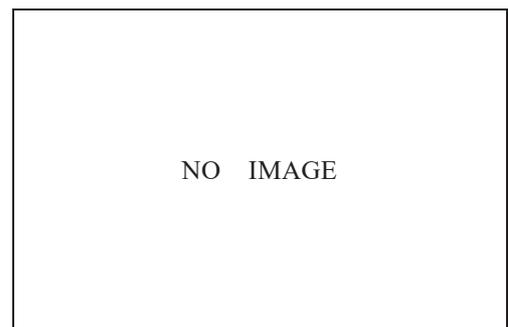
5. 減少の主要因と脅威

ため池や池沼の開発 (12) が主要因である。

6. 保護対策

生育が再確認された場合は、産地に依じて善処することが重要である。

(宮崎一夫)



イヌイ *Juncus fauriei* H. Lév. et Vaniot

(=ヒライ、ネジイ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イグサ科 Juncaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さは20~40 cm。根茎は太く2~4 mm、茎は扁平で数回ねじれる。葉は茎の下部に鱗片状についている。花期は5~7月。花は1個の花序に10~30個つく。雄蕊は6本で、葯は花糸より著しく長い。蒴果は長楕円形で黒褐色、光沢あり。長さは4~5 mm。種子は広楕円形で鉄さび色。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、北クリール)に、国内では南千島、北海道、本州、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂地や山地の湿地。

4. 生育状況

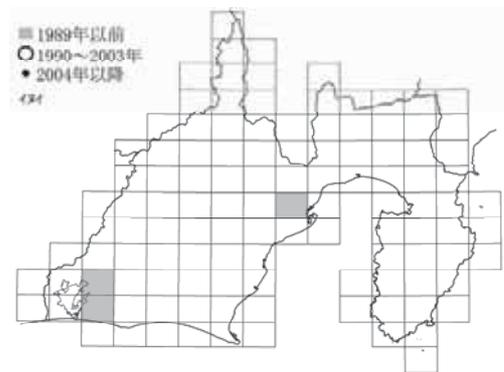
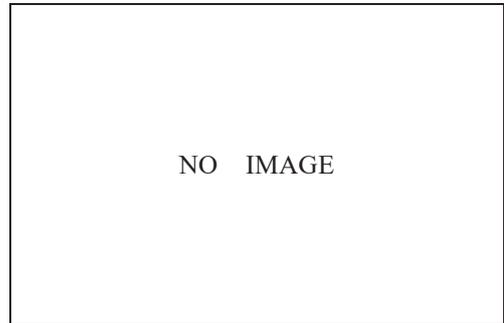
静岡県植物誌(1984)には県西部での記録があるが、前回(2004年)調査、今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

海浜の開発(14)や海岸砂地の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育地の環境を保全すること。
(湯浅保雄)



チャシバスケ *Carex caryophyllaea* Latour. var. *microtricha* (Franch.) Kük.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~40 cm。長い匍枝を伸ばして疎生する。花期は5~7月。小穂は上部に接近してつき、頂小穂は雄性で1個、棍棒状で淡褐色。その下に雌小穂が1~3個、長さ1~2 cmで、雌鱗片は明らかな褐色部分がある。果胞は長さ3 mmほど、細脈があって有毛。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、北クリール、カムチャツカ)、朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

山地や海岸の芝地、静岡県では高山の砂礫地や草地。

4. 生育状況

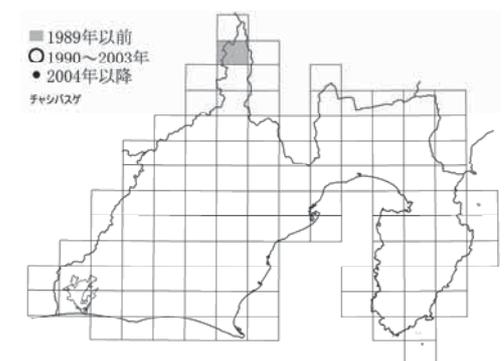
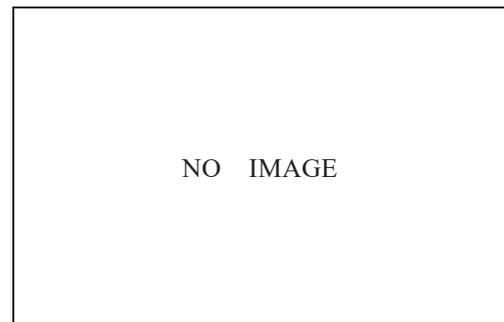
静岡県植物誌(1984)に南アルプスの塩見岳の記録が記載されているが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境の変化(71)が主要因と考えられる。またシカによる食害(52-1)も脅威である。

6. 保護対策

踏みつけを防ぐため、登山道以外に立ち入らないようにすること。
(湯浅保雄)



キンチャクスゲ *Carex mertensii* Presc. var. *urostachys* (Franch.) Kük.

(=イワキスゲ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~60 cm。根茎は短く叢生する。葉は柔らかく、幅 4~8 mm。果期は 7~8 月。小穂は 4~8 個、雌雄性で雌花の部分が多く、基部に雄花部がある。長さ 2~4 cm、長い柄があって點頭する。雌鱗片は黒褐色で、果胞より短い。果胞は扁平で、長さ 4~5 mm。瘦果は長倒卵形で 3 稜がある。柱頭は 3 岐。

2. 分布

国外ではロシア (北クリール) に、国内では南千島、北海道、本州に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。県内の産地は分布の南限である。

3. 生育環境

高山帯の中生草地。

4. 生育状況

近年生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

登山者による踏みつけ (51) と植生遷移 (54) が減少の主要因と考えられる。

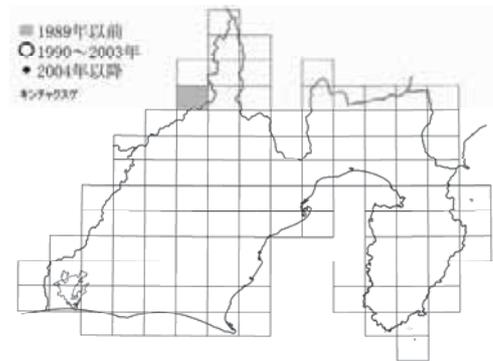
6. 保護対策

登山道周辺では踏みつけに注意する。

(湯浅保雄)



長野県 2014年8月3日 室伏幸一



サギスゲ *Eriophorum gracile* K. Koch

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~60 cm。地下茎は長い匍枝があり、茎は株を作らず、まばらに叢生する。茎は鈍 3 稜形、根出葉は 3 稜形で細く正面に溝がある。茎葉は短い、下部は長い鞘となって、茎の下部を包む。花期は 7 月。茎の先に散形花序を作り、長短不同の 2~5 本の枝先に小穂をつけ開花する。果実は 3 稜のある狭長楕円形で、長さ 3~3.5 mm。6~8 月に熟す。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ユーラシア、北アメリカに、国内では北海道、本州 (中・北部) に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜寒帯の湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に富士宮市の記録があるが、前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

生育環境の消失 (15) と園芸採取 (41) が減少の主要因である。

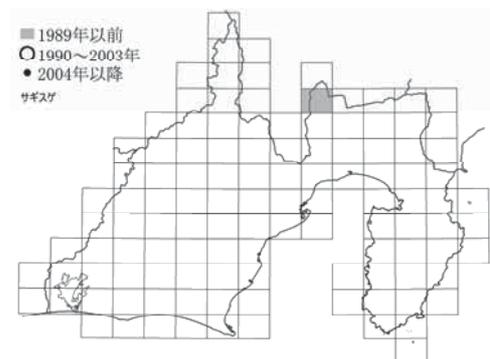
6. 保護対策

生育環境の湿地を保全すること。

(湯浅保雄)



©P I X T A



台湾ヤマイ *Schoenoplectus wallichii* (Nees) T. Koyama

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

1年草または多年草。高さ30~40 cm。茎は細い円柱形で叢生する。果期は8~9月。花序は4~7個の無柄の小穂からなる。小穂は披針形で熟しても淡い緑色を保つ。細刺針状花被片は果実の2倍の長さがある。類似のホタルイの小穂は卵形で、刺針状花被片は果実より短いか、わずかに長い。

2. 分布

国外では中国、台湾、朝鮮半島、インド、インドネシアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

池沼畔、湿地、水田跡地。

4. 生育状況

藤枝市の記録があるが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

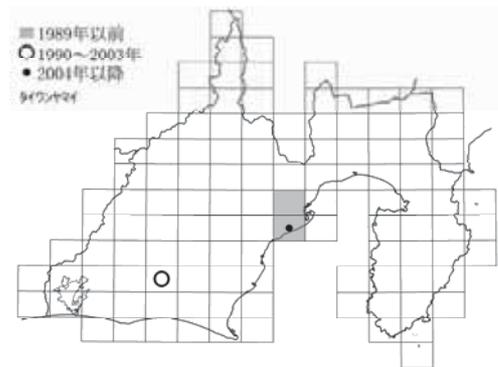
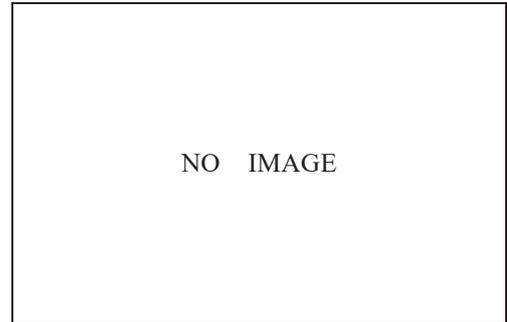
5. 減少の主要因と脅威

池沼や湿地の埋め立て(12)や整備(15)、農薬による汚染(32)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育環境に配慮して保全すること。

(湯浅保雄)



ヒゲノガリヤス *Calamagrostis longiseta* Hack.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ20~80 cm。根茎は短く、茎は束生する。葉身は長さ15~30 cm、幅2~4 mmでわずかに内側に巻く。上面白緑色。花期は7~9月。円錐花序は長さ7~14 cm。枝は半輪生状につき、小穂はやや密につく。小穂は長さ4~5 mmで1小花からなる。包穎、護穎ともほぼ同長。芒は長さ6~12 mmで、途中でよじれ屈曲する。

2. 分布

日本固有種で、国内では本州(中・北部、近畿地方)に分布する。県内では東部(毛無山)と中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から寒帯の草地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に東部の毛無山と中部の南アルプス赤石岳の記録が載っている。しかし、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)などの生育環境の変化が減少の主要因と考えられる。シカによる食害(52-1)も脅威である。

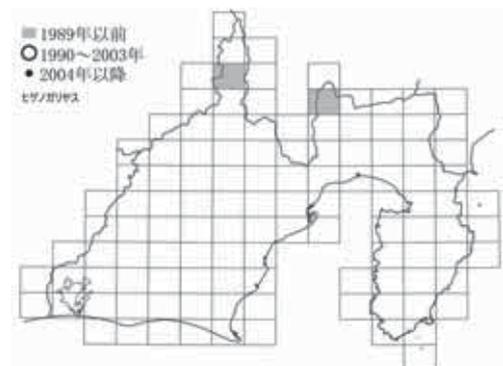
6. 保護対策

生育環境に配慮して保全すること。

(湯浅保雄)



長野県 2018年7月20日 室伏幸一



キダチノネズミガヤ *Muhlenbergia ramosa* (Hack.) Makino

(=ヤブネズミガヤ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イネ科 Poaceae

2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~100 cm。根茎は長く 10~30 mm になり、径は 1.5~2 mm で紙質の薄い鱗片に覆われる。葉は長さ 8~15 cm、幅 3~8 mm で柔らかい。茎は丈夫で多くの枝を分かち花序をつける。花期は 8~10 月。小穂は灰緑色でしばしば淡紫色を帯び、1 小花からなる。護穎の芒は直立し長さ 5~8 mm。

2. 分布

国外では中国中部に、国内では本州（中部以西）、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

温帯の林内。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、静岡市門屋と掛川市小笠山の記録があるが、前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも確認されていない。ネズミガヤ属の植物はよく似ているため、過去の記録は標本の確認が必要である。

5. 減少の主要因と脅威

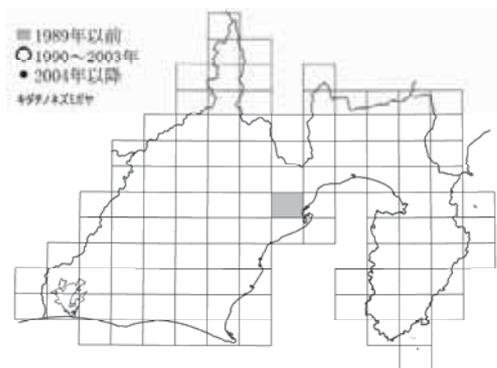
植生遷移 (54) が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、最適な生育環境を維持する。

(湯浅保雄)

NO IMAGE



イトイチゴツナギ *Poa matsumurae* Hack.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~80 cm。地下茎は細く 10 cm 以上になり、ところどころの節から桿を出す。葉は柔らかく鮮緑色。長さ 10~15 cm、幅 1.2~3 mm。花期は 5~7 月。花序は長さ 8~15 cm、幅 3~5 cm。枝はまばらで横に開く。小穂はまばらで扁平、長さ 4~6 mm で 4~5 花よりなる。基盤の綴毛は長くて目立つ。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州（北・中部）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯、亜高山帯の林内や林縁。

4. 生育状況

県東部の愛鷹山に記録があるが、前回 (2004 年) 調査や今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11) による生育環境の変化や林道の開設 (24) などが減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認された時には、生育環境の保全と、シカによる踏みつけ及び食害に対処すること。

(湯浅保雄)

NO IMAGE



ヤマブキソウ *Hylomecon japonica* (Thunb.) Prantl et Kundig

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ケシ科 Papaveraceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~50 cm。根出葉は長い柄がある羽状複葉。長さ 30 cm にもなる。小葉は 5~7 個。茎葉は短柄で小葉は 3~5 個。花期は 4~6 月。鮮黄色の 4 弁の花をつける。萼片は緑色で 2 個。花弁は長さ約 1.5 cm、萼片は開花前に落ちる。茎や葉には黄色の液を含む。蒴果は細い円柱形で長さ 3 cm ほど。

2. 分布

国外ではシベリア東部、中国、朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から暖温帯の湿潤肥沃な落葉樹林内に生育する。

4. 生育状況

産地も個体数も少なく、今回の調査では確認されなかった。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) による生育環境の変化や、植生遷移 (54)、園芸採取 (41) が減少の主要因と考えられる。

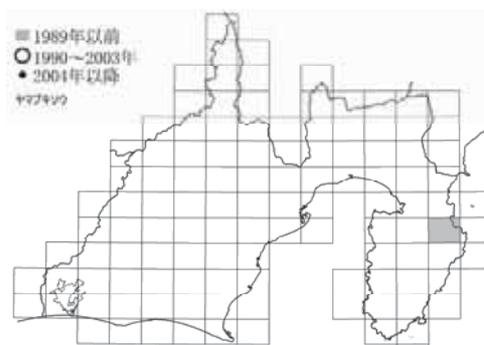
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境を最適なものに整え保全すること。

(湯浅保雄)



東京都 2016年4月20日 宮崎一夫



ヤマケマン *Corydalis ophiocarpa* Hook. f. et Thomson

静岡県カテゴリ 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ケシ科 Papaveraceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

二年草。高さ 40~80 cm。葉は卵~狭卵形で数回羽状に分裂する。長さ 10~15 cm、幅 5~8 cm。花期は 5~7 月。茎頂に長さ 10~30 cm の総状花序を作り、淡黄色の小さな花を多数つける。花は長さ 8~13 mm で、先が唇状に開き、他方の先端は曲がって少しふくれた距となる。蒴果は線状で長さ約 2 cm、少しねじれている。

2. 分布

国外ではシベリア東部、中国、台湾に、国内では本州 (関東地方)、四国に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の溪谷沿いの岩上など。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、旧本川根町と旧水窪町の記録があるが、前回 (2004年) 調査、今回の調査とも生育が確認されなかった。

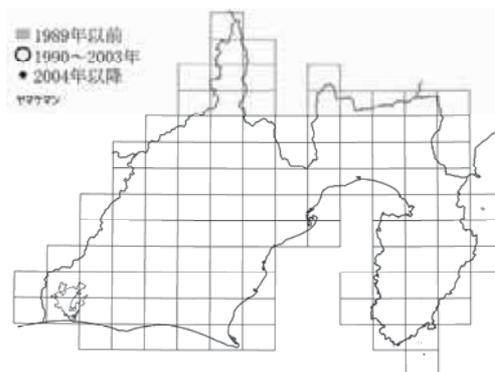
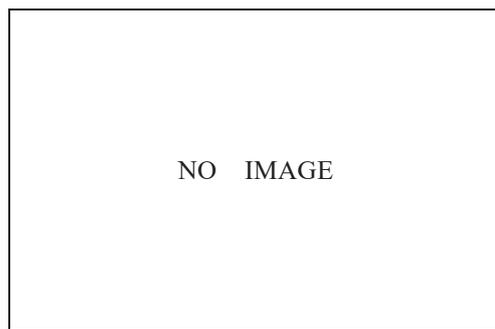
5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11) による環境の変化が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に適した環境を維持すること。

(湯浅保雄)



モメンツル *Astragalus reflexistipulus* Miq.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~80 cm。茎は斜上する。葉は奇数羽状複葉で、小葉は長卵~長楕円形で、長さ 2~5 cm、幅 1~2.5 cm。数は 13~19 枚。花期は 6~8 月。花序は長さ 2~3 cm で 15 個ほどの黄色の蝶形花をつける。花の長さは 12~13 mm。豆果は熟すと直立する。細い円柱形で、長さ 3.5~4.5 cm、太さ約 4 mm で短毛がある。2 室に分かれ多数の種子を入れる。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山麓の草地。

4. 生育状況

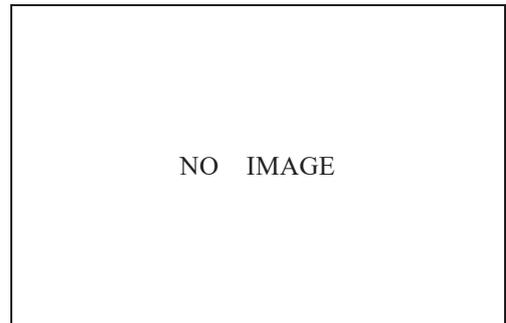
静岡県植物誌 (1984) に県西部の記録が載っているが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の管理放棄による植生変化 (53)、あるいは草地の植林化 (71) が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

自生産地が見つかったら、最適な生育環境を作り維持すること。
(湯浅保雄)



ヒロハノカワラサイコ *Potentilla niponica* Th. Wolf

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~40 cm。茎は直立または斜上し、軟毛を密生する。葉は奇数羽状複葉で小葉は 7~15 枚、小葉間に付属小葉片はない。表面は緑色でほぼ無毛。裏面は白綿毛が密生する。花期は 6~8 月。茎頂にまばらの散房状集散花序を作り、まばらに黄色の花をつける。花の径は約 1 cm。類似のカワラサイコは、小葉の数が 15~29 枚と多く、また小葉間に付属小葉片がある。

2. 分布

国外ではロシア (ウスリー)、中国東北部、朝鮮半島に、国内では北海道、本州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい草地や河川敷に生える。

4. 生育状況

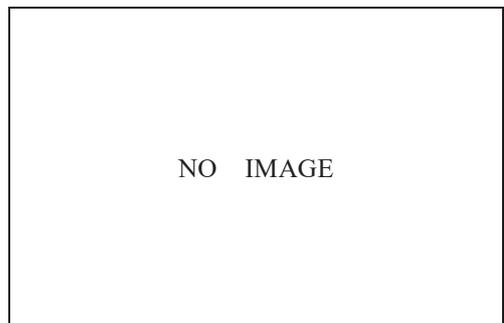
過去には、個体数は少ないが広く分布していた。しかし、前回 (2004 年) 調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植林 (71) や植生遷移 (54) による草地の減少が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に適した環境を維持すること。
(湯浅保雄)



クモイザクラ *Cerasus nipponica* (Matsum.) Ohle ex H. Ohba

var. *alpina* (Koidz.) H. Ohba

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。葉は倒卵形で長さ3 cmほど。葉柄には毛がほとんどない。蜜腺は葉柄の上部につき、鋸歯先端の腺体は明らかでない。花期は7~8月。散房状の花序に径2 cm前後の淡紅色の花を1~2個つける。苞は大きく果時にも残る。花序には基本種のタカネザクラと異なり1~2.5 cmの長い総花柄がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。南アルプス特産である。

3. 生育環境

高山帯の多少湿った岩礫地。

4. 生育状況

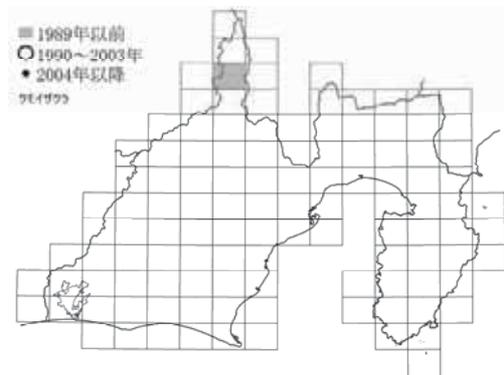
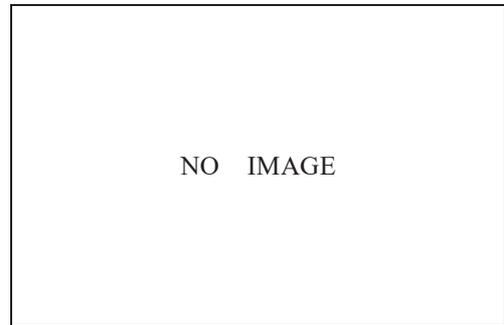
静岡県植物誌(1984)には南アルプスの荒川岳で1925年と1931年に確認されたことが記載されている。しかし、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

崩壊などによる生育地の消失(55)が減少の主要因と推測されるが正確には不明(99)である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育地盤の保全を図ることと、シカによる食害を防ぐこと。
(湯浅保雄)



ハチジョウイチゴ *Rubus ribisoideus* Matsum.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。茎は直立し、よく分枝する。茎や枝は初め絨毛を密生するが、古くなると落ちる。葉は長柄があり、葉身は円形、幅6~11 cm、3~5中裂する。裏面と葉柄は絨毛に密に覆われる。花期は3~4月。花は枝先に1(~3)個點頭し、径3~4 cm。花弁は白色で5枚。花柄、萼とも絨毛に覆われる。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、紀伊半島、山口県)、四国、九州、伊豆七島に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸近くの草地や林縁。

4. 生育状況

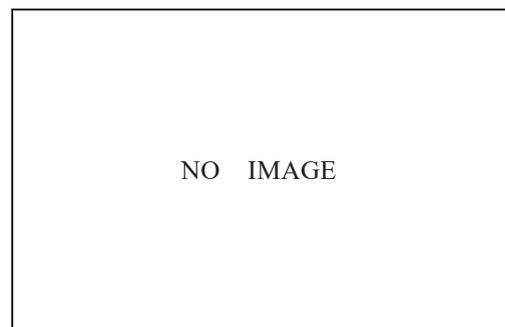
静岡県植物誌(1984)には、東伊豆町、南伊豆町、下田市の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

沿岸部の開発(14)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、環境に配慮して保全すること。
(湯浅保雄)



キビナワシロイチゴ *Robus yoshinoi* Koidz.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

匍匐性の落葉小低木。茎は20~30 cmになるが、その後横に長く伸びて地面を這う。葉は互生。有柄、3出複葉。頂小葉は長楕円形で鋭尖頭、基部は心形。花期は5~6月。本年枝の先端に総状花序を作り、紅紫色の小花をつける。花弁は倒卵形のへら形で長さ5~6 mm、萼とともに直立する。

2. 分布

日本固有種で、本州(東北~中国地方)、九州に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯下位の草原や林縁。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には藤枝市の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

不明(99)。

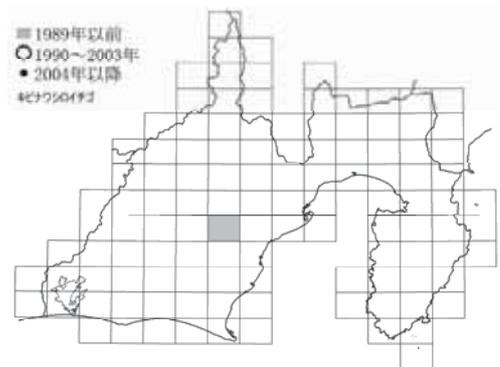
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境に配慮し、保全を行うこと。

(湯浅保雄)



長野県 2016年8月19日 室伏幸一



ノグルミ *Platycarya strobilacea* Siebold et Zucc.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

クルミ科 Juglandaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉高木。高さ10 m、径60 cmに達する。幹は直立し、若枝には軟毛が密生するが後に無毛となる。枝には皮目が目立つ。葉は奇数羽状複葉で長さ20~30 cm。7~15枚の小葉がある。小葉は長さ5~10 cm、幅1~3 cm。花期は6月。枝先に直立する長さ4~10 cmの尾状の雄花序と、卵状長楕円形で1.5~2 cmの雌花序をつける。果穂には披針形の苞が密に重なる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国大陸、ベトナムに、国内では本州(神奈川県以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の日当たりのよい林縁に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、天城山と初島の記録が載っているが、前回(2004年)調査と今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)が減少の主要因と考えられる。

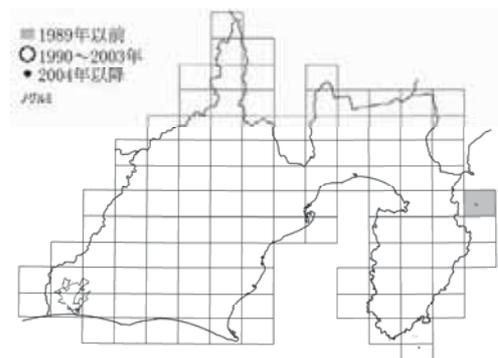
6. 保護対策

生育が確認できたら、最適な生育環境を維持して保護すること。

(湯浅保雄)



©フォトライブラリ



ハシバミ *Corylus heterophylla* Fisch. ex Besser var. *thunbergii* Blume

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

カバノキ科 Betulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。多くの場合株立ちとなり、高さ5 mに達するものもある。若枝や葉柄には軟毛がある。葉は広楕円形で長さ幅とも5~12 cm。やや欠刻状の重鋸歯がある。花期は3~4月。雌雄同株。雄花序は尾状に下垂し、雌花序は小さく数花が頭状につく。堅果は球形で径約1.5 cm。葉状で先が数裂している総苞2枚によって包まれている。

2. 分布

国外ではロシア(アムール、ウスリー)、中国、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の向陽の山地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には県内2ヶ所の生育地が記載されているが、その後、確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

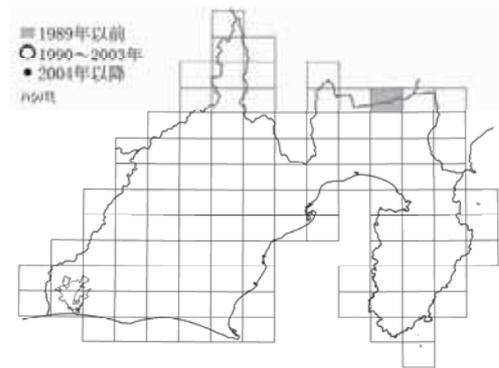
山林の伐採(11)や植生遷移(54)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境に配慮して保護すること。(湯浅保雄)



長野県 2018年6月29日 室伏幸一



フジスミレ *Viola tokubuchiana* Makino var. *tokubuchiana*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ3~8 cm。無茎種。開花の後に地中匍枝を伸ばし新株を作る。葉は卵形で先端は鋭形、長さ1.5~4.5 cm。表面は暗緑色、脈に沿って白斑がある。裏面は紫色を帯び、短毛がある。花期は4~5月。花は紅紫色。径1.5~2 cm。側弁の基部にまばらに毛がある。亜種のヒナスミレと間違ひやすいので、葉の形や鋸歯、花の距などの違いを確認する必要がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(栃木県、長野県、静岡県)に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉広葉樹林の湿り気のある林床。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に、静岡市、春野町、水窪町の記録があるが、その後見つかっていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)による生育環境の変化や林道の開設(24)などが減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

自生地が見つかったら、生育環境をそのまま保全すること。(湯浅保雄)



©フォトライブラリ



ゲンジスミレ *Viola variegata* Fisch. ex DC. var. *nipponica* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~10 cm。葉、葉柄、花柄、萼片、蒴果に細かい毛が密生する。葉は円心形ないし広卵心形。長さ2.5~5 cm。低い鋸歯がある。表面は暗紫色。裏面は帯紫色。花期は4~5月。花柄は葉より短く高さ1~10 cm。花は帯紅紫色。花弁の長さ8~11 mm。側弁に毛がある。距は細長く、長さ7~8 mm。

2. 分布

日本固有変種で、本州(中・北部、岡山県)、四国(愛媛県)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯。明るい落葉樹林や歩道脇など。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に愛鷹山で採取されたとの情報が載っているが、その後、確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)や植生遷移(54)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境とともに保全すること。

(湯浅保雄)



©PIXTA



ヒメスミレサイシン *Viola yazawana* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更コード

スミレ科 Violaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ7~8 cm。無茎種、地下匍枝は出ない。古い葉柄が残る。葉は少なく花に遅れて開く。広卵形で先は尖る。長さ3~4 cm。花期は6月。花柄の先に白色の花を開く。花弁の長さは8~13 mm。唇弁に紫の筋がある。側弁は無毛。距は短く長さ2.5~3 mm。蒴果は長さ7~8 mmで、紫斑がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(長野県、埼玉県、静岡県)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から亜寒帯の林床。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には毛無山(1985)と富士山麓の記録があるが、その後全く確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)が減少の主要因と考えられる。

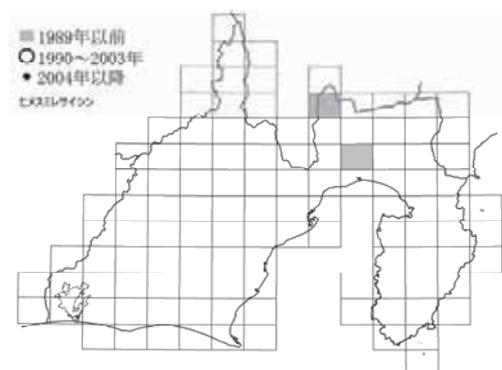
6. 保護対策

自生地が見つかったら、その生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



山梨県 2018年5月12日 室伏幸一



ナガバノヤノネグサ *Persicaria breviochreata* (Makino) Ohki

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。茎は根元から分枝し斜上する。ふつう1列の下向きの刺毛がある。葉は長楕円状披針形、基部は浅い矢じり形か浅い心形。耳部は三角形。長さ3~9 cm、幅1~2 cm。托葉小葉短く、長さ2~5 mm。花期は7~10月。茎の先端と上部の葉腋に花序を出してまばらに2~6個の花をつける。花弁はなく、萼は紅色を帯びた淡緑色で深く5裂する。

2. 分布

国外では朝鮮半島南部及び済州島、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

沢沿いの林床や林縁に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に天城山の記録が載っているが、その後確認された情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採（11）による生育環境の変化が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、その植物に適した生育環境を保全すること。

（湯浅保雄）



岐阜県 2018年10月3日 室伏幸一



ワダソウ *Pseudostellaria heterophylla* (Miq.) Pax

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。主根は紡錘状で1個。葉は対生し、しばしば2形をしめす。上部の葉は広披針形から広卵形で4枚の葉が接近して輪生状につき、下部の葉は倒披針形で2~4対はなれてつく。花期は4~5月。上部の葉腋から短毛のある花柄を出し、その先に白色の1花を上向きにひらく。類似のヒゲネワチガイソウとは花柄の毛の有無で区別できる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア（ウスリー）に、国内では本州（中部地方以北）、九州北部に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯山地の草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には富士山周辺の記録があるが、前回（2004年）調査でも、今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移（54）が減少の主要因と考えられる。

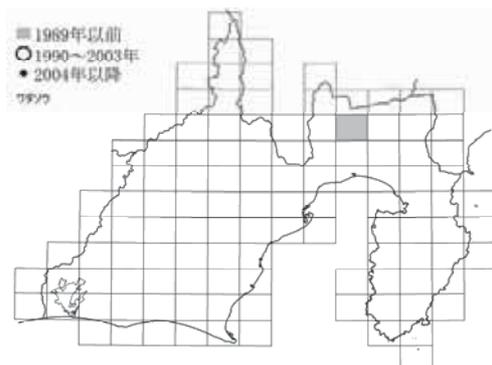
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に適した環境を保全すること。

（湯浅保雄）



長野県 2017年5月19日 室伏幸一



シラオイハコベ *Stellaria fenzlii* Regel

(=エゾフスマ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~35 cm。茎は直立し、上部で枝を分ける。葉は無柄で広披針形、長さ 2~7 cm、幅 6~10 mm。花期は 6~8 月。花はまばらの集散花序につく。萼片は広披針形で長さ 3~4 mm、花弁は白色。萼片より短く 2 深裂する。または花弁はない。果実は長卵形、長さ 5~6 mm。種子には突起はない。

2. 分布

国外ではロシア (ウスリー、アムール、北クリール、サハリン、オホーツク、カムチャツカ) に、国内では南千島、北海道、本州 (中部以北) に分布する。県内では中部に分布する。南アルプスは南限自生地である。

3. 生育環境

南アルプスの亜高山帯の針葉樹林内の岩上などに生える。

4. 生育状況

前回 (2004 年) 調査時にも、今回も確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

天然性針葉樹林の伐採 (11) による生育環境の変化が減少の主要因である。

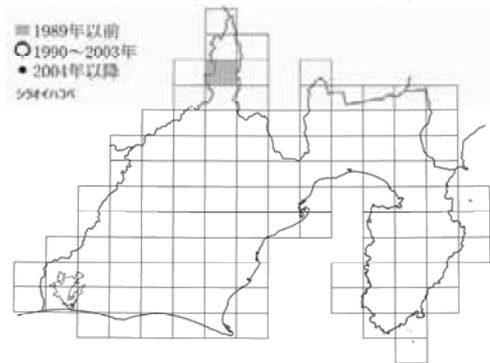
6. 保護対策

現存する亜高山帯の針葉樹林を保全すること。

(湯浅保雄)



長野県 2017年8月5日 室伏幸一



ハマアカザ *Atriplex subcordata* Kitag.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒユ科 Amaranthaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ 40~60 cm。茎は直立する。葉は互生して三角状披針形で縁には粗い鋸歯があり、また葉の基部には上向きの裂片がある。長さ 2~8 cm、幅 2~4.5 cm。花期は 8~10 月。枝先に穂を出して淡緑色の花弁のない花をつける。雌雄異株。雄花には苞がなく 5 裂した萼片がある。雌花には 2 個の苞があるが萼片はない。類似のホソバハマアカザの葉は、全縁か波状の低い歯牙はあるが基部の裂片はない。

2. 分布

国外ではロシア (北クリール、サハリン)、朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州に分布する。県内では伊豆、西部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂地や内湾や河口の湿地。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、初島、下田市、旧大須賀町の記録があるが、その後確認記録はない。

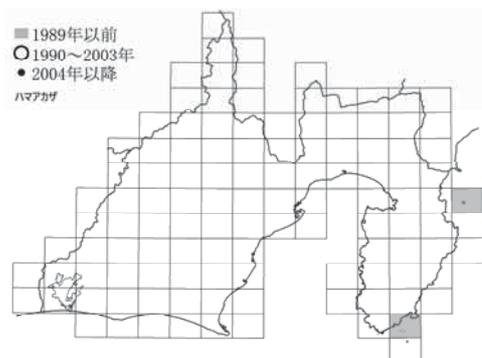
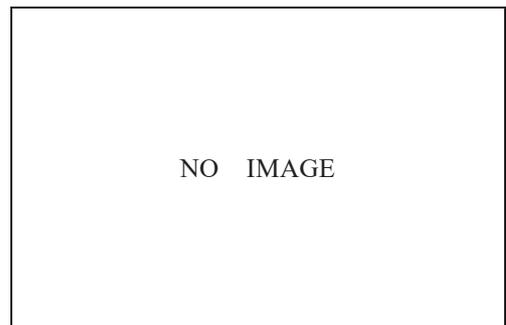
5. 減少の主要因と脅威

砂浜の減少や海岸の整備及び護岸工事 (14) などによる生育適地の消失が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育に最適な環境を維持すること。

(湯浅保雄)



イソハウキギ *Bassia scoparia* (L.) A. J. Scott var. *scoparia*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒユ科 Amaranthaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ 30~80 cm。茎は直立し、全体に多くの枝を出す。葉は互生し線状披針形で全縁、長さ 1~5 cm、幅 2~5 mm。花期は 8~10 月。葉腋に淡緑色の花を 1~3 個つける。両性花と雌花がある。両花とも花弁はなく、萼は 5 裂し長さ 1.5 mm。果期には雌花の萼片は、上部が広卵形で全縁の翼となって、平たい球形の胞果を包む。栽培されるハウキギは、葉が薄いことや雌花の萼上部の翼の縁に不規則な切れ込みがある。日本の野生植物 (2017) によると、「かつては別種として区別されていたが、原産地では変異が大きくて別種とするのは無理がある」とのことである。

2. 分布

国外では中国東北部、朝鮮半島に、国内では本州 (東海地方以西)、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

海辺の砂泥地。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には静岡市、旧清水市、旧御前崎町の記録があるが、その後、確認された記録はない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発や整備 (14) が減少の主要因であろう。

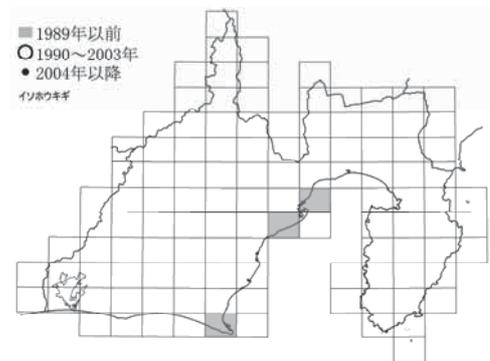
6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に適した環境を維持すること。

(湯浅保雄)



愛知県 1996年9月29日 内藤宇佐彦



ハマツナ *Suaeda maritima* (L.) Dumort. var. *maritima*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ヒユ科 Amaranthaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N- I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

一年草。高さ 20~60 cm。茎は分枝し、葉は肉質の線形で長さ 1~3 cm、幅 1~2 mm。花期は 8~9 月。花柄は葉に合着しない。花は上部の葉腋に数個つく。茎や葉は秋に紅葉する。近縁種のマツナは花柄が葉に合着する。ヒロハママツナは花柄が葉に合着しないが葉の幅が 2.5~4 mm とより広い。

2. 分布

国外では北半球に、国内では本州 (宮城県以南)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆と中部に分布する。

3. 生育環境

満潮時に海水が植物体を没する潮間帯の、波が穏やかな入り江や河口の塩湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、三保と伊豆海岸の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

入り江や河口の護岸や開発 (13, 14) による生育地の改変が脅威である。

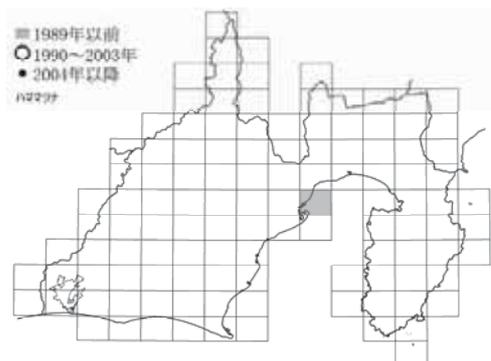
6. 保護対策

入り江や河口は開発の圧力が高く塩性湿地が減少しているので、潮間帯を多く残す施策が重要である。

(宮崎一夫)



愛知県 2017年9月24日 室伏幸一



イワウチワ *Shortia uniflora* (Maxim.) Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

イワウメ科 Diapensiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎は細く地を這い、枝先に葉を束生する。葉は革質で長い柄があり、広円形または広楕円形で先がややへこむ。基部は心形。花期は4~5月。葉腋から細長い花茎を伸ばし、淡紅色の1個の花をつける。花冠は広鐘形で先は5裂し、各片はさらに縁が細かく裂ける。

2. 分布

日本固有種で、本州（東北地方~中国地方東部）に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯中部から温帯下位の林内の岩場に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には東部の愛鷹山と西部の白倉山の記録があるが、前回（2004年）調査や今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取（41）や森林の伐採（11）による環境の変化が主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、環境の急激な変化を避ける。また、園芸採取を防ぐために産地情報の公開は慎重に行うこと。
(湯浅保雄)



長野県 2012年4月30日 宮崎一夫



キバナカワラマツバ *Galium verum* L. subsp. *asiaticum* (Nakai) T. Yamaz.

var. *asiaticum* Nakai f. *luteolum* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

アカネ科 Rubiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ30~80cm。茎は直立し、細毛はあるが刺状突起はない。葉は8~10枚輪生し、腺状で長さ2~3cm、幅1.5~3mm。縁はやや裏側に反り返る。花期は7~8月。茎の先や、上部の葉腋からの枝先に円錐状の集散花序を作り、小さな淡黄色の花を密につける。花冠は径2mmで4裂。果実は小さく径1~1.5mmで無毛。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から暖温帯の乾燥した草原や荒地、土手などに生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に、御殿場市、裾野市、富士宮市の毛無山、南アルプスの三伏峠の記録があるが、前回（2004年）調査、今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

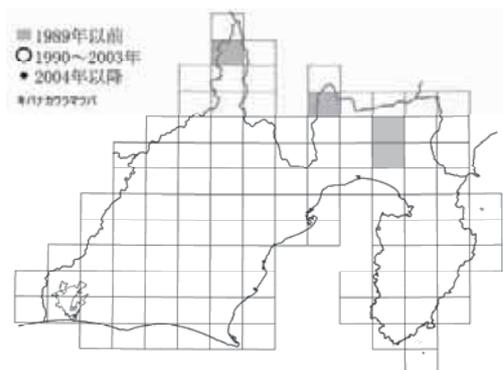
植生遷移（54）による生育環境の変化が主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が見つかったら、最適な生育環境を維持するように努めること。
(湯浅保雄)



滋賀県 2013年9月2日 宮崎一夫



トネリコ *Fraxinus japonica* Blume ex K. Koch

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

モクセイ科 Oleaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉高木。高さ 15 m、径 60 cm 以上になる。葉は奇数羽状複葉で柄とともに長さ 20~35 cm、小葉は 5~9 対、長卵形で先は尖り長さ 5~15 cm、幅 3~6 cm。縁に低い鋸歯がある。不完全な雄性両性異株。花期は 4~5 月。今年枝の先に円錐花序を出し、淡緑色の小さい花を多数つける。花弁はない。雄花には 2 本の雄蕊、雌花には 1 本の雌蕊がある。両生花もある。

2. 分布

日本固有種で、本州 (中部以北) に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から暖温帯のやや湿ったところ。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に天城山と富士山の情報が載っているが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の伐採 (11) が減少の主要因であると考えられる。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、周辺の森林とともに保全すること。

(湯浅保雄)



©2020 K. Murofushi

三島市 (植栽) 2019年7月17日 室伏幸一



ヒヨクソウ *Veronica laxa* Benth.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 25~70 cm。葉は対生しほとんど柄がない。葉身は卵形で先は尖るが基部は円形。茎とともに両面に軟毛が密生している。長さ 2~5 cm。花期は 6~7 月。上部の葉腋から細い花序を出し、多くの花をつける。花冠は紫色で、径 6~8 mm。蒴果は倒心形で縁に毛が生える。放射相称に 4 裂する。

2. 分布

国外では中国、パキスタン、インド、ヒマラヤに、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい草原。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に富士山麓での、梅村甚太郎 (1923) と著者の杉本順一 (1932) の確認記録が載っているが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の管理不足 (53) と植生遷移 (54) が減少の主要因である。

6. 保護対策

草原の適切な維持管理。

(湯浅保雄)



©2020 K. Murofushi

岐阜県 2015年6月12日 室伏幸一



ゴマノハグサ *Scrophularia buergeriana* Miq.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ゴマノハグサ科 Scrophulariaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ90~100 cm。茎は直立し、根の一部は紡錘状に肥大する。葉は対生し、長さ6~8 cm、幅3~4 cmで卵形をしている。縁にやや尖った多数の鋸歯がある。花期は7~8月。茎の先に細長い総状花序を作り、多くの黄緑色の花をつける。花冠はふくらんだ壺状で先は浅く5裂する。花柄には短い腺毛がやや密に生える。

2. 分布

国外では中国(北・東北部)、朝鮮半島に、国内では本州(関東地方南部、中部地方、中国地方)、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯のやや湿った草原。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、伊豆半島での4ヶ所の産地が載っているが、その後の確認記録はない。

5. 減少の主要因と脅威

草原の人工林化(16)と管理放棄(53)による植生遷移(54)の進行が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育に適した環境の造成とその保全を行うこと。

(湯浅保雄)



栃木県 2019年7月13日 室伏幸一



サツキヒナノウスツボ *Scrophularia musashiensis* Bonati

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

ゴマノハグサ科 Scrophulariaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年生。高さ40~80 cm。茎は4稜がある。葉は対生し、薄く卵状長楕円形または卵形で、長さ7~15 cm、幅3~8 cm。葉柄には狭い翼がある。花期は4月末~5月。葉腋から1~3個の花のついた花序を出す。花冠の長さは9~11 mm。類似のヒナノウスツボは花期が7~9月で、茎頂に円錐花序を出す。また花の長さは7~9 mmと小さい。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方西部、鈴鹿山地)に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

山地の林縁。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、産地として東部の天子山地、西部の旧水窪町、湖西連峰が載っているが、その後の確認情報は無い。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)と植生遷移(54)やシカによる食害(52-1)が減少の主要因と考えられる。

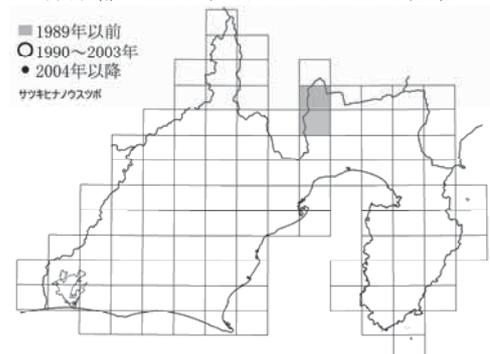
6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境の保全とシカによる食害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



東京都 2008年4月29日 西口紀雄



ハルノタムラソウ *Salvia ranzaniana* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。茎はやや花茎状で、葉は基部に集まってロゼット状を呈している。葉には長い柄があり、葉身は1~2回羽状複葉。葉柄には花序とともに開出毛がある。花期は4~6月。花冠は白色から淡紫色。花冠の長さは約8 mm。類縁種のシマジタムラソウは花期が7~8月である。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、紀伊半島)、四国、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の谷間の湿った木陰やコケの生えた岩の上。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に1979年に東部の2ヶ所で確認されたという記述があるが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)による生育環境の急激な変化が減少の主要因と考えられる。

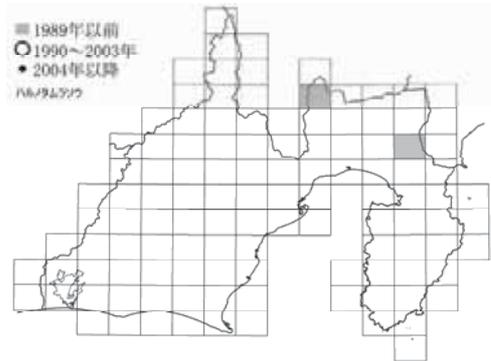
6. 保護対策

生育地が見つかったら、生育環境に配慮して保全すること。

(湯浅保雄)



三重県 2013年6月3日 宮崎一夫



ナミキソウ *Scutellaria strigillosa* Hemsl.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~40 cm。地下茎を伸ばして繁殖する。葉は長楕円状披針形で長さ1.5~3.5 mm、幅1~1.5 mm。縁には鈍鋸歯がある。花期は6~9月。花は上部の葉腋に1個ずつつき、長さ2~2.2 cmで青紫色。基部で折れ曲がってほぼ直立する。分果は長さ約1.8 mmで半円形。丸い小突起がある。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、北クリール)、中国東北部、朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

海岸の砂地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には富士市田子の浦と旧清水市三保での記録があるが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも見つかっていない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発(14)が減少の主要因である。

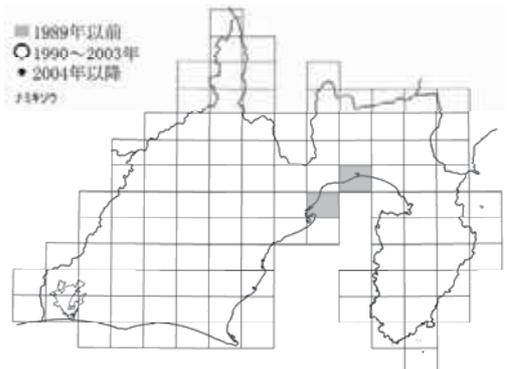
6. 保護対策

生育地が見つかったら、広範囲に最適な環境を保全すること。

(湯浅保雄)



富士市 1996年6月10日 杉野孝雄



ハマベノギク *Aster arenarius* (Kitam.) Nemoto

(=スナジノギク)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

越年草。茎は地を這う。葉はさじ形、先は丸く、辺毛あり。花期は7~10月。頭花は径15 cm、総苞片はさじ形。舌状花は淡紫色で、その冠毛は5 mm、筒花は黄色で、その冠毛は3~4 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州(北陸~山陰)、九州、対馬に分布する。県内では爪木崎と御前崎町の記録がある。自生記録を検証する必要がある。

3. 生育環境

海岸の崖地の日当たり地で、高茎草本に覆われていない場所に生育する。

4. 生育状況

記録地の下田市爪木崎、旧御前崎町ともに近年、生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

不明(99)。

6. 保護対策

特になし。

(西口紀雄)



福井県 2005年8月6日 内藤宇佐彦



セイタカトウヒレン *Saussurea tanakae* Franch. et Sav. ex Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ30~100 cm。常に狭い翼がつく。根出葉は開花時には枯れてない。茎葉は有柄で、葉身は心形または広卵形、先は鋭尖頭で縁には不揃いの鋸歯がある。長さ8~15 cm。頭花は径15 mm。花期は9月。茎の上部で分枝し、散房状あるいは総状に暗紫色の頭花をつける。頭花は径15 mm。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州(関東・中部・中国地方)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山地草原。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に富士山に分布すると記載されているが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が減少の主要因と考えられる。現在ではシカによる食害(52-1)も脅威である。

6. 保護対策

産地が確認されたら、生育環境に配慮した取り扱いが必要である。

(湯浅保雄)



山梨県 2019年9月16日 室伏幸一



クマノギク *Sphagneticola calendulacea* (L.) Pruski

(=ハマグルマ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。茎は地を這って節から根を出して伸びる。葉は対生し、披針～長楕円形、長さ2～7 cm、幅6～12 mm、洋紙質で面はざらつく。花期は5～9月。長い柄のある黄色の頭花を茎の先に1個つける。径2～2.5 cm。瘦果は倒卵形で長さ3.5 mm、上部にあい毛がある。冠毛は縁の欠けた杯状で長さ1 mm。

2. 分布

国外では中国南部、台湾、マレーシア、インドに、国内では本州（伊豆半島、紀伊半島）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸のやや湿った砂地などに生える。

4. 生育状況

東伊豆町と下田市などに記録があるが、前回（2004年）調査時も今回の調査でも生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発整備（14）が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



©PIXTA



ドクゼリ *Cicuta virosa* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ1 m。地下茎は太く、節間部は中空。茎は中空で直立し上部で分枝する。葉は2～3回羽状複葉で、小葉は長楕円状披針形で鋸歯がある。長さ3～8 cm、幅5～20 mm。花期は6～7月。複散形花序を出して白色の花をつける。果実は扁球形で、長さ約2.5 mm。

地下茎や根にシクトクシンという有毒成分を多く含む。

2. 分布

国外ではユーラシア大陸に広く、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の池沼や湿原に生育する。

4. 生育状況

かつては広く分布していたが、前回（2004年）調査でも、今回の調査でも確認することはできなかった。

5. 減少の主要因と脅威

池沼や湿地の埋め立てや開発（12、15）が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、その生育環境を改善し保全すること。

(湯浅保雄)



福井県 2005年6月1日 内藤宇佐彦



カワラボウフウ *Kitagawia terebinthaceum* (Fisch. ex Trevir.) Pimenov
var. *deltoidea* (Makino) Yonek.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 現状不明) 変更なし

セリ科 Apiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 90 cm に達する。茎は直立して、しばしば紅紫色を帯びる。葉は 2 回羽状複葉で硬く葉面には光沢がある。花期は 8~10 月。枝先に複散形花序を出し、多数の小花をつける。5 枚の花弁は内側に曲がる。果実は扁平で広楕円形、両辺は翼状。長さ 3~4 mm。

2. 分布

国外ではロシア (シベリア東部、アムール、ウスリー、北クリール)、朝鮮半島、中国に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

寒帯から暖温帯の日当たりのよい草地や岩場、河原など。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に、旧天竜市での記録があるが、その後の生育状況は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

草地の消失 (16) が減少の主要因であると推定される。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境を最適な状態にして保護すること。

(湯浅保雄)



長野県 2016年6月19日 加藤 徹



リュウビンタイ *Angiopteris lygodiiifolia* Rosenst.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

リュウビンタイ科 Marattiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。根茎は大きなものでは径 30 cm ほどにもなり、数枚叢生する葉は 3 m にも及ぶ。葉は楕円形で 2 回羽状複生。小羽片は披針形で、基部で左右同形。孢子嚢群は辺縁近くに位置、小脈の間に偽脈が伸び、縁と小羽軸との 1/3 まで達する。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州、伊豆諸島、小笠原、沖縄に分布する。県内では伊豆（伊東市、熱海市、西伊豆町）と西部（掛川市）に分布する。伊豆は、本種分布の東北限である。

3. 生育環境

暖地の山地林下のやや多湿の林床に生ずる。

4. 生育状況

伊東市の群生地は、国の天然記念物指定を受け、生育状況も良好である。熱海、西伊豆では、個体数がごく少ない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採 (11)、溪谷の整備工事 (13)、林道改修 (24)、園芸採取 (41) などが脅威である。

6. 保護対策

山林の樹木伐採、山中小河川の整備工事、林道改修などによる環境への悪影響を防ぐ必要がある。（細倉哲穂）



伊東市 2017年7月29日 宮崎一夫



オドリコカグマ *Microlepia sinostrigosa* Ching

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

コバノイシカグマ科 Dennstaedtiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。フモトカグマとイシカグマの中間的な形質をもつが、孢子は正常である。小羽片の切れ込みは深く、羽軸上面が無毛であることで、フモトカグマと区別容易。孢子嚢群が辺縁より内側にはいることで、イシカグマとの区別も容易である。和名は、小説「伊豆の踊子」に因むものとされる。

2. 分布

日本固有種で、本州（伊豆）、四国（徳島県）、九州（中・南部）に分布する。県内では伊豆（西伊豆町、南伊豆町、河津町、下田市など）に分布する。伊豆は分布の東北限である。

3. 生育環境

暖地山地のやや向陽の林下や、谷間など溪流近くに生ずる。

4. 生育状況

小群落を作って生育する。伊豆では南半に点在分布することが知られているが、フモトカグマなどと紛れて、まだ分布は広がっているのかも知れない。

5. 減少の主要因と脅威

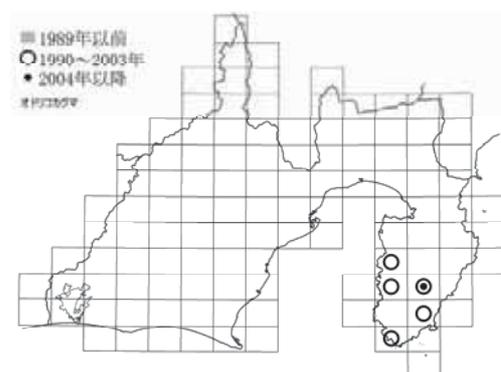
林道の改修 (24)、樹木の伐採 (11) などにより、すでに絶滅した所もある。

6. 保護対策

山林の樹木伐採、林道、山道の改修などによる生育地の破壊、環境の悪化を防ぐ必要がある。（細倉哲穂）



河津町 2005年4月30日 杉野孝雄



ヒメハシゴシダ *Thelypteris cystopteroides* (D. C. Eaton) Ching

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎は長く横走り、葉はややまばらに出る。葉柄下部鱗片はまばらで披針形、茶褐色で全縁。コハシゴシダに似るが、羽片は数個の小羽片をもつだけで、羽片、小羽片の先端は鈍頭である。孢子嚢群は円形、包膜は円腎形で有毛である。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島に、国内では本州（静岡県、紀伊半島、広島県）、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆（下田市）と東部（富士市）に分布する。

3. 生育環境

暖地林縁の草地、路傍、崖地、林床のやや向陽の場所に生育、根茎で小さな群落を作る。

4. 生育状況

下田市須崎では、小さな群落を作るが、個体数は少なく、富士市須津溪谷では、生育が確認されなくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

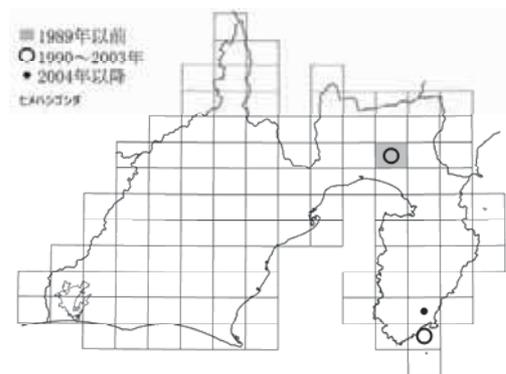
生育地及び周辺の山道の整備（24）、樹木の伐採（11）などが、絶滅、減少の脅威である。

6. 保護対策

生育地及びその周辺の山道、林道の整備、樹木伐採などによる環境の悪化を防ぎたい。（内藤宇佐彦）



下田市 2012年7月7日 内藤宇佐彦



ケホシダ *Thelypteris parasitica* (L.) Tardieu

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。根茎は長く横走り、小群落を作る。ホシダに似るが、葉身は矛状にならず、従って頂羽片ははっきりしない。葉身下部の2対ほどの羽片は下向する。葉は両面に毛が著しい。孢子嚢群はやや辺縁寄りである。円腎形の包膜は有毛である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国から東南アジア、太平洋諸島、アフリカに、国内では本州（伊豆半島）、四国（南部）、九州（南部）、沖縄、八丈島、小笠原諸島に分布する。県内では伊豆（下田市、南伊豆町）に分布する。八丈島が分布の東限、伊豆半島が分布の北限である。

3. 生育環境

暖地の海岸寄りの山麓、山野の林内や路傍などに生育する。

4. 生育状況

生育地も少なく、群生地もあるが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移（54）や山林の伐採（11）、山道の整備工事（24）などによる環境変化が脅威である。

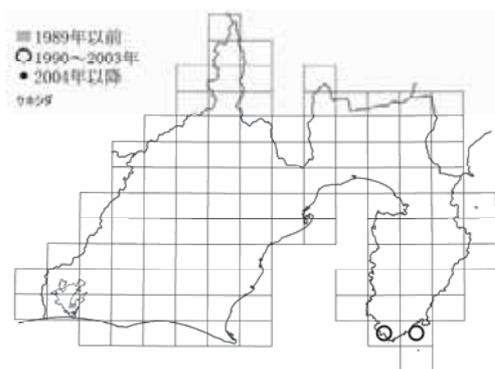
6. 保護対策

生育地の環境の改変がなされないような対策が必要である。

（細倉哲穂）



下田市 1999年3月29日 細倉哲穂



ハイコモチシダ *Woodwardia unigemmata* (Makino) Nakai

(=ジョウレンシダ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

シシガシラ科 Blechnaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。根茎は短いけど、群落を作る。葉は大型になれば2 mに達する。コモチシダに似るが、芽立ちの時には紅色をしている。葉の表面にはコモチシダと異なり無性芽をもたないが、上部羽片の基部には葉軸上に数個の大きな無性芽をつける。コモチシダとの雑種をイズコモチシダという。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、インドシナ、ネパール、インドに、国内では本州（伊豆半島）、九州（熊本県、鹿児島県）に分布する。県内では伊豆（伊豆市、河津町、西伊豆町など）に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地、林内の陰湿な崖面や斜面に生ずる。

4. 生育状況

天城湯ヶ島浄蓮の滝の生育地は滝壺の周辺、壁面などに生育、良好な生育状況である。西伊豆町一色の群生地も、生育状況はきわめて良好である。

5. 減少の主要因と脅威

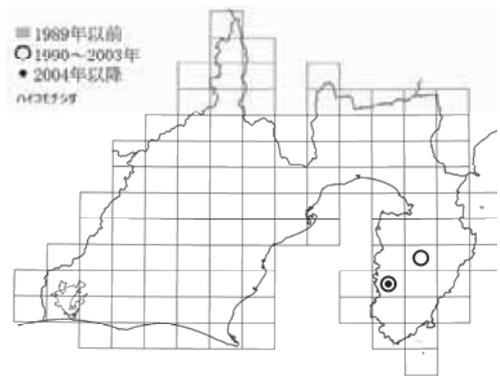
西伊豆町の群生地は、山林の樹木伐採（11）、林道の修復、改良工事（24）などによる脅威がある。

6. 保護対策

山林の樹木伐採、林道の修復、改良工事などによる生育地の環境変化を防ぐ必要がある。（内藤宇佐彦）



西伊豆町 2012年4月7日 内藤宇佐彦



タカサゴシダ *Dryopteris formosana* (H. Christ) C. Chr.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

中～大型の常緑性シダ。葉は長さ60 cmに達する。葉柄の鱗片は褐色で披針形、全縁である。葉身は3回羽状で卵状三角形または五角形で、上部は羽片が急に短くなり矛状になる。下向き第1小羽片は長く伸びる。

2. 分布

国外では韓国（済州島）、中国、台湾、フィリピンに、国内では本州（静岡県以西）、九州、屋久島、徳之島に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

暖帯の低山地や丘陵地の、林内の乾いた岩場や崖に生育する。

4. 生育状況

小笠山付近と浜名湖周辺に産地は限られて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

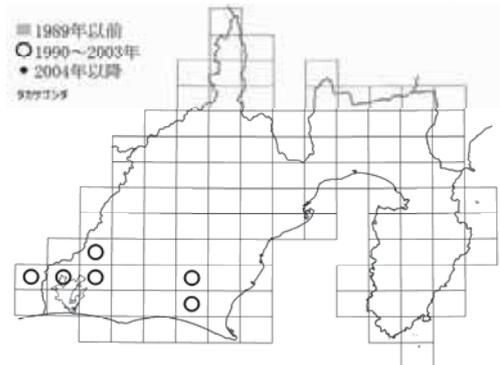
生育地の山林伐採（11）や土地造成（23）で減少する危険性がある。

6. 保護対策

生育地の保護と森林伐採の回避で環境の維持を図ることが重要である。（内藤宇佐彦）



浜松市 2002年2月10日 内藤宇佐彦



フジイノデ *Polystichum ohmurae* Sa. Kurata

var. *fujipedis* Namegata et Sa. Kurata

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。葉長 20 cm ほどまで。トヨグチイノデの変種とされ、葉柄、葉軸の茶色がかって濃くなる鱗片の形状などはトヨグチイノデと酷似するが、小羽片は幅狭く、孢子嚢群は中肋と辺縁との中間につく(トヨグチイノデは小羽片の辺縁寄りにつく)。基準産地は富士山(山梨県富士吉田市)である。

2. 分布

日本固有変種で、本州(山梨県、長野県、静岡県)に分布する。県内では東部(富士山)と中部(南アルプス南部)に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の山地林下の岩のある所、林内や道沿いの岩上や地面上に生育する。

4. 生育状況

産地はきわめて限られる。個体数も少ない。

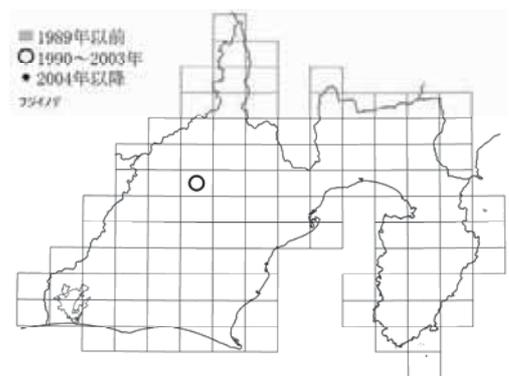
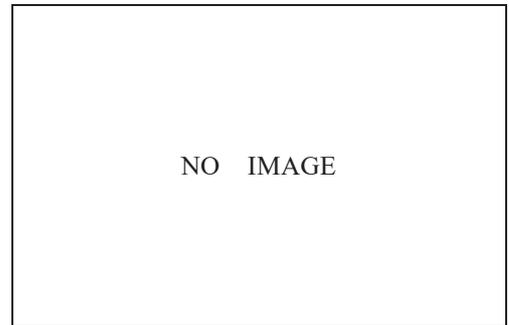
5. 減少の主要因と脅威

生育地及び周辺の山林の伐採(11)、山道の整備、改修(24)が脅威である。登山者の踏みつけ(51)も懸念される。

6. 保護対策

生育地の山林の樹木伐採などによる環境変化を防ぎたい。また、登山者の踏みつけによる消失も防ぐ必要がある。

(細倉哲穂)



オキナワハイネズ *Juniperus taxifolia* Hook. et Arn.

var. *lutchuensis* (Koidz.) Satake

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ヒノキ科 Cupressaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑低木。幹は地に伏して砂浜を這う。葉は針形で長さ 8~14 mm、幅 1.2~1.5 mm。3輪生6列で密につく。上面は粉白色、下面は淡黄緑色、先端に鈍頭。葉の上面は少しへこんでいるが溝状にはならない。雌雄異株。毬果は褐色で球形。径 10~12 mm。種子は三角状卵形で長さ 4.5~5.5 mm。類似のハイネズの葉は、先端が刺状に尖り、また表面はへこんで深い溝状となる。

2. 分布

日本固有変種で、本州(房総半島~東海地方)、伊豆七島、奄美大島以南の琉球に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい海岸の岩石地や砂浜。

4. 生育状況

多産地は限られているが、伊豆半島南部では各地に散生あるいは群生している。

5. 減少の主要因と脅威

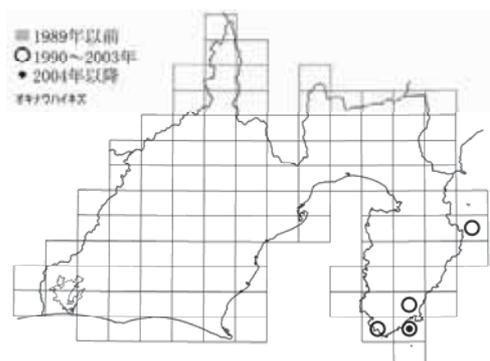
海岸の整備・開発(14)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地を含む地域を開発や整備するときには、生育地を破壊しないように十分配慮すること。(湯浅保雄)



下田市 2013年12月7日 内藤宇佐彦



タカネサギソウ *Platanthera maximowicziana* (Schltr.) K. Inoue

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。根の一部は紡錘形。葉は最下の1枚は大きく狭楕円形で長さ3~4 cm、上の葉は小さく披針形で尖る。鱗片葉は披針形で上方のものほど小さくなる。花期は7~8月。花は淡黄緑色で5~10個をつける。苞は披針形で花よりも長く目立つ。背萼片は卵形で長さ3.5~5.5 mm。唇弁は広披針形で長さ8 mm。距は下向で7~14 mm。近似種のヤマサギソウは鱗片葉が2~5個あり、高さ20~40 cmである。

2. 分布

国外では千島、シベリア、朝鮮半島、中国東北部に、国内では北海道、本州(北・中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布し、南限自生地である。

3. 生育環境

亜高山帯のやや湿った草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には南アルプスの記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

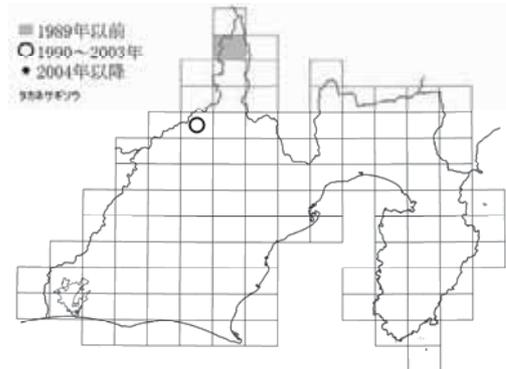
乾燥化による植生遷移(54)が主要因である。園芸採取(41)や踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。(宮崎一夫)



長野県 2017年8月5日 室伏幸一



ニシノホンモンジスゲ *Carex stenostachys* Franch. et Sav. var. *stenostachys*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。有花茎は30~50 cmになる。根茎は短く密に叢生する。葉の幅は2~3 mm。果期は4~6月。頂小穂は雄性。線柱形で長さ2~3.5 cm、褐色。側小穂は雌性で2~4個、やや離れてつく。細円柱形で長さ1~3 cm。苞は有鞘で葉身は小穂と同長。雌鱗片は栗褐色。果胞は長さ約3 mmで有毛。柱頭は3岐。

2. 分布

日本固有変種で、本州(主に新潟県~中国地方の日本海側)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

広葉樹林内、林縁、草地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に1983年に旧天竜市で確認された記録が載っているが、その後の情報は無い。

5. 減少の主要因と脅威

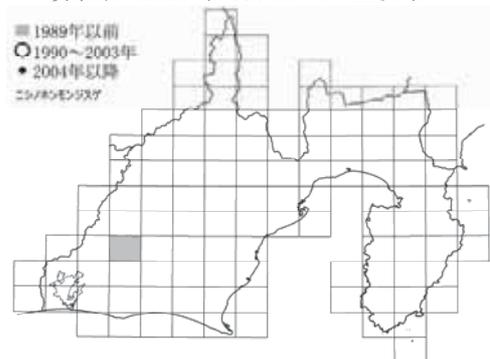
森林の伐採(11)による生育環境の変化や植生遷移(54)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、最適な生育環境を維持するように配慮すること。(湯浅保雄)



岐阜県 2018年4月26日 室伏幸一



マシカクイ *Eleocharis tetraquetra* Nees

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。白褐色の鱗片に覆われた匍枝を引く。枝茎にやや鋭い4稜があり、高さ30~90 cm。果期は6~9月。小穂は1個で傾いてつき、刺針は果実より1.5倍長で逆細針がある。

2. 分布

国外では中国、台湾、インド、スリランカ、東南アジア、オーストラリアに、国内では本州(中部地方以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県が東限自生地である。

3. 生育環境

丘陵地や低山地のため池の岸边や休耕田などの湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市や湖西市などに生育する。産地は限られて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の改修(12)や湿地の乾燥化(54)で生育地の消失が懸念される。

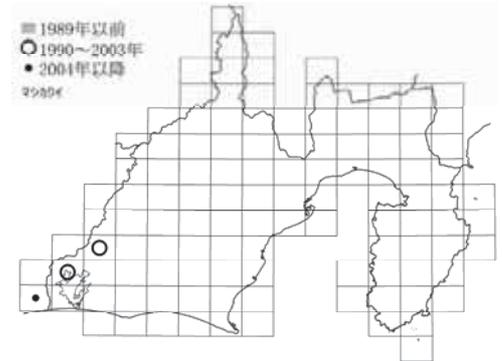
6. 保護対策

生育地の保護と、草刈りなど遷移進行を抑制する対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2009年9月22日 内藤宇佐彦



ヒナガリヤス *Calamagrostis nana* Takeda subsp. *nana*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。長い根茎を引いて、その節ごとに発芽する。葉の大部分は根生し、長さ10~30 cm、幅1~3 mm。乾くと内側に巻いて径1~2 mmの細い管となる。円錐花序は長さ5~12 cm。枝は各節に2~6本。小穂は淡紫色で1花からなる。芒は短く小穂の外に出ない。花序の枝も小穂の柄も平滑。

2. 分布

国外では北アメリカ北部、ヨーロッパ北東部、ロシア(カムチャツカ、北クリール、サハリン)、国内では本州(北・中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。南アルプスの荒川岳は分布の南限自生地。

3. 生育環境

高山帯の砂礫地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には南アルプスの荒川岳の記録があるが、前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認されていない。目立たない植物なので調査での見落としとも考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ(51)も減少の一要因と考えられる。

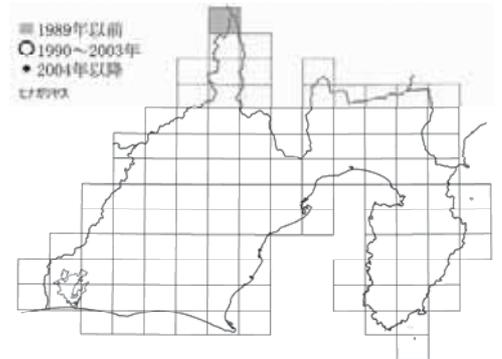
6. 保護対策

登山者が生育地に踏み入らないようにすること。

(湯浅保雄)



長野県 2019年8月25日 室伏幸一



ヒメカラマツ *Thalictrum alpinum* L. var. *stipitatum* Y. Yabe

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

キンポウゲ科 Ranunculaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。茎は分枝しない。根出葉は花期にも残存し2~3回3出複葉。葉はやや質が厚く葉脈は下面に隆起し、托葉は膜質、全縁で淡褐色。花期は7~8月。花序は総状で下垂する。花柄は長さ0.5~1.5 cm。花は径0.5~1 cm、花弁はなく、萼片は4枚で早落性。雄蕊多数が束生し長さ8 mm、花糸は糸状で紫色。葯は鮮黄色。近縁種のアキカラマツは根出葉は花期にはなく、円錐花序をなす。

2. 分布

日本固有変種で、本州(中部地方)、四国に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の風衝地の岩上や岩礫地の疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスにあり少ない。産量が多い。矮小で軟弱な植物なので植生遷移の影響を受けている。

5. 減少の主要因と脅威

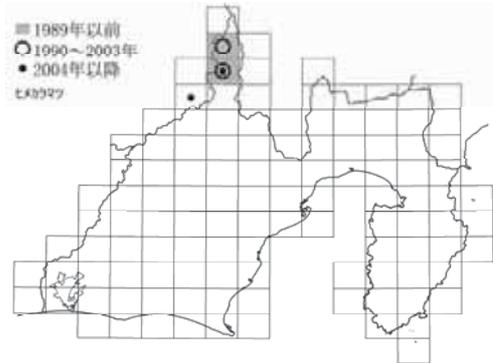
植生遷移(54)による生育圧力が主要因である。登山者による踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

登山道の迂回整備や登山者の配慮により踏圧を回避する。
(宮崎一夫)



静岡市 2003年7月20日 宮崎一夫



ミカワチャルメルソウ *Mitella furusei* Ohwi var. *furusei*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。根茎は短く、根出葉を束生する。葉は心卵形で不揃いの鋸歯がある。花期は4~5月。花は紅紫色。花弁は羽状で7~11裂する。

2. 分布

日本固有変種で、本州(静岡県、愛知県、岐阜県、長野県)に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

山地の溪側や湿った林下に生育する。

4. 生育状況

西部の北部山地の所々で見られる。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)、林道の建設など(24)で減少傾向にある。

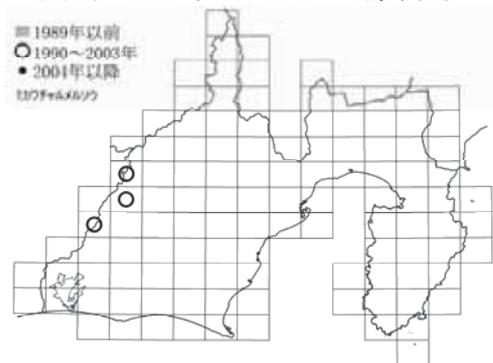
6. 保護対策

生育地の森林保護と、道路工事の際には事前調査と生育が確認された場合はその保護対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年4月21日 内藤宇佐彦



ムラサキモメンヅル *Astragalus laxmannii* Jacq. var. *adsurgens* (Pall.) Kitag.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

マメ科 Fabaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ5~15 cm。茎は叢生し散開して地表に這う。葉は奇数羽状複葉。小葉は17~21個、狭楕円形で長さ7~20 mm、下面に伏毛がある。花期は7~8月。花序は総状で腋生し花を10~20個つける。花は青紫色で長さ12~20 mm。萼は長さ5.5~9.5 mm、黒褐色と白色の伏毛が混生する。豆果は無柄の長楕円形で長さ1.5~2 cm、黒褐色と白色の伏毛が混生する。近縁種のモメンヅルは花が黄白色である。

2. 分布

日本固有変種で、北海道、本州(岩手県、中部地方)に分布する。県内では東部(富士山)に分布しており、分布の南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯の火山砂礫や石灰岩地に生育する。

4. 生育状況

産地は富士山に局限している。産量が多い。登山者が増えて踏圧を受けている。

5. 減少の主要因と脅威

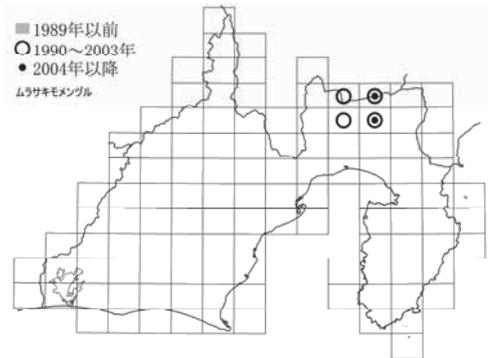
登山者の踏圧(51)が主要因である。砂礫の移動も脅威である。

6. 保護対策

生育地点を避けた登山道の整備が重要である。



御殿場市 2012年7月18日 宮崎一夫



(宮崎一夫)

ビロードイチゴ *Rubus corchorifolius* L. f.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。茎は傾斜し、絨毛を密生し刺がある。葉は長楕円形で、時に3浅裂し長さ3~10 cm。表面には絨毛が密生する。花期は4~5月。白色の花をつける。花弁は倒卵形のへら形で長さ約10 mm。果実は球形で径約10 mm、黄紅色に熟す。花托に短毛があり、小核果にも短毛が密生する。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州(静岡県以西)、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。静岡県は分布の東限自生地である。

3. 生育環境

暖温帯の谷筋の林内や林縁。

4. 生育状況

産地は一部の地域に集中しており、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)や林道開設とその整備(24)が減少の主要因である。

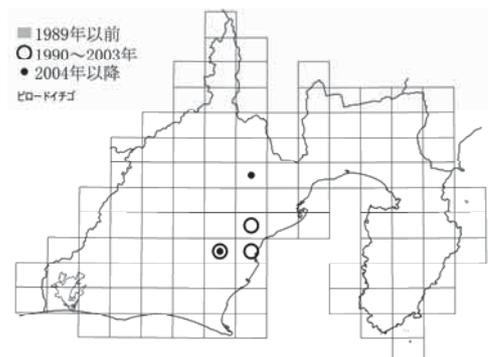
6. 保護対策

自生を確認したら、枯死させないように取り扱うこと。

(湯浅保雄)



島田市 2017年4月9日 内藤宇佐彦



モクレイシ *Microtropis japonica* (Franch. et Sav.) Hallier f. var. *japonica*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-) 変更なし

ニシキギ科 Celastraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑小高木。高さ 5 m。今年枝は暗紫色、前年枝以上は灰色になる。葉は革質で対生し、卵形ないし楕円形。長さ 4.5 ~ 7.5 cm、幅 2 ~ 3.5 cm。全縁で少し裏側に反り返る。雌雄異株。花期は 3 ~ 4 月。枝先の葉腋に淡黄緑色で径約 5 mm の花を数個つける。花は 5 数性で、花冠の裂片は円形で約 3 mm。蒴果は楕円形、長さ 1.5 ~ 2 cm、2 片に裂開し赤色の大型の 1 個の種子を出す。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の山すその林内。

4. 生育状況

比較的産地や個体数は多い。

5. 減少の主要因と脅威

山林の伐採 (11) と土地開発 (23) が減少の主要因である。

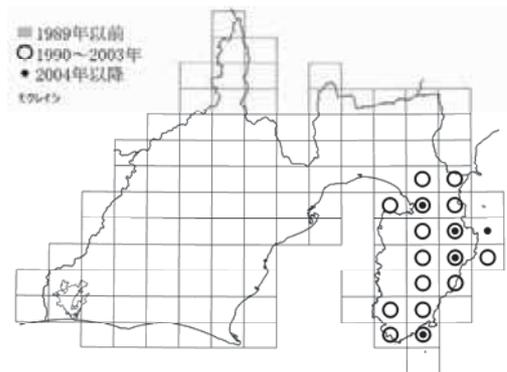
6. 保護対策

山林の開発を制限すること。

(湯浅保雄)



下田市 2016年3月27日 内藤宇佐彦



ハクセンナズナ *Macropodium pterospermum* F. Schmidt

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 40 ~ 110 cm。茎は単一で斜上する。根出葉は広卵形で長柄あり、茎葉は広披針形で鋸歯がある。花期は 7 ~ 8 月。花序は長さ 20 ~ 40 cm で多くの花をつける。萼片と花弁は濃紫色で細い。雄蕊は突き出す。果実は長い果柄の先につき、太い円棒状で長さ 3 ~ 6 cm。

2. 分布

国外ではサハリン、中国に、国内では北海道、本州 (中部以北) に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布しており、静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯下位と森林限界付近の水場の周辺や湿った草地に生育する。

4. 生育状況

近年の生育状況は不明である。生育環境の変化により株数が減少していると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) による生育への圧力と乾燥化 (71) による環境の悪化である。

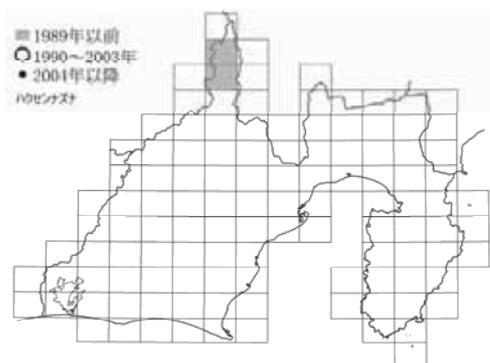
6. 保護対策

登山者は水場周辺の踏み荒らしに注意すべきである。

(宮崎一夫)



北海道 2016年8月5日 室伏幸一



ミヤマツメクサ *Minuartia macrocarpa* (Pursh) Ostenf.

var. *jooi* (Makino) H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ3~5 cm。叢生してマット状となる。茎には腺毛がある。葉は針形で長さ7~12 mm、幅1~1.5 mmで3脈がある。葉縁全周に少突起がある。花期は7~8月。茎頂に径1 cmの大きな白色の花を1個つける。花柄には腺毛を密生する。類似のタカネツメクサの葉は、幅が0.5~0.8 mmと細く、1脈であり、葉身の基部のみに小突起がある。

2. 分布

日本固有変種で、本州中部に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山の砂礫地や岩礫地。

4. 生育状況

南アルプスの高山帯に生育するが、産地と個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の環境変化(71)と登山者の踏みつけ(51)が減少の主要因である。

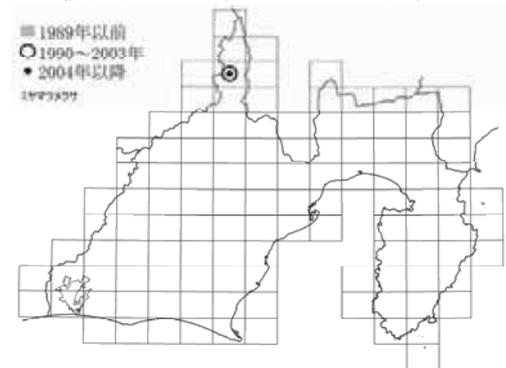
6. 保護対策

登山道以外に立ち入らないようにし、踏みつけを防ぐこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2019年8月1日 室伏幸一



ウンゼンツツジ *Rhododendron serpyllifolium* (A. Gray) Miq. var. *serpyllifolium*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

半常緑の低木。高さ1.5 mほど。若枝や葉柄には剛毛が密生する。葉の倒披針形で長さは5~10 mm、幅2~4 mm、先は尖って腺状突起がある。花期は4~5月、枝先の1個の花芽から1個の広漏斗状の花を開く。花冠は淡紅紫色で、径1.3~1.5 cm。雄蕊は5本、花糸の下部に白い短毛があり、子房には長毛が密生する。蒴果は長さ約5 mmで、褐色長毛が密生する。

2. 分布

日本固有変種で、本州(伊豆半島、紀伊半島)、四国(南部)、九州(大隅半島)に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯の山地の尾根や岩場、岩石地など。

4. 生育状況

個体数は多くはないが、広い範囲に生育している。しかし今回の調査では、調査不足もあり、確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

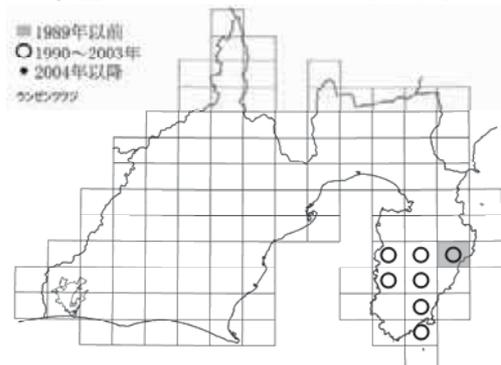
森林開発(11)や園芸採取(41)が減少の主要因である。

6. 保護対策

森林開発時には、事前に調査を行い、生育地を保全すること。また、園芸用の採取を禁止すること。(湯浅保雄)



伊豆市 2000年5月10日 杉野孝雄



ヒロハコンロンカ *Mussaenda shikokiana* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

アカネ科 Rubiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ 1~4 m。幹は直立して側生し枝はやや垂れる。葉は対生して葉柄は長さ 1~3.5 cm、葉身は広卵形で長さ 9~18 cm、質は薄く軟らかく、側脈は 10 個前後あり裏に突出する。托葉は各節に 2 個ある。花期は 7~8 月。花は黄色で集散花序をなす。萼片の 1 個は大型で白色の花弁状になり目立つ。果実は楕円形で緑色から暗緑色に熟す。近縁種のコンロンカはややつル状で托葉は各節に 4 個ある。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布しており、静岡県は東北限自生地である。

3. 生育環境

暖帯の暖かな林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は伊豆と西部にあり少ない。産量も少ない。植林の被陰を避けるように、林縁から乗り出して生育している。

5. 減少の主要因と脅威

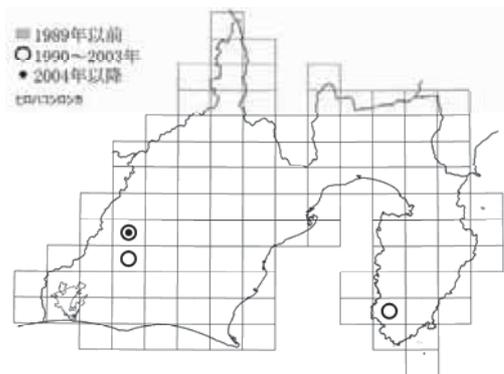
植林による被陰 (71) が主要因である。植林を皆伐 (11) する時に伐採されるおそれもある。

6. 保護対策

分布の北東限であり分布上の学術的にも貴重であるので、伐採されないように保護の施策をする。(宮崎一夫)



浜松市 2017年7月20日 宮崎一夫



トウヤクリンドウ *Gentiana algida* Pall.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 8~15 cm。無性期は根出葉で、花期の茎葉は無柄で広線形から披針形で中脈がへこみ長さ 2~5 cm。花期は 8~9 月。花冠は筒状で長さ 3.5~4 cm、淡黄色で緑色の斑点がある。花は茎頂に単生し、日を受けて上向きに開き、花冠裂片は平開することなく斜開し、副片は低い。近縁種のおヤマリンドウは茎頂の葉腋に青紫色の花を数個つける。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、シベリアなどに、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯における尾根周辺の岩礫地から疎草地に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスのほぼ全域である。産量は有性株以外の根出葉も多く見られ生育は安定している。

5. 減少の主要因と脅威

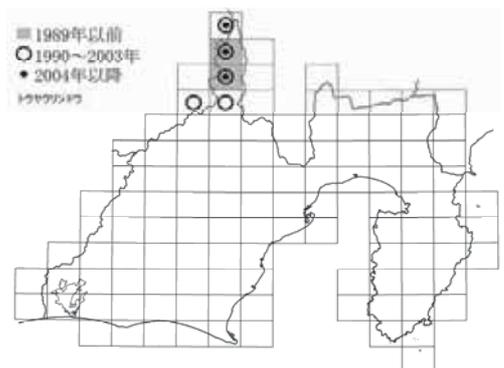
登山者による踏圧 (51) が主要因である。雪積減少や温暖化 (71) も脅威である。

6. 保護対策

花を見るためでも登山道を逸脱しないように啓発が必要である。温暖化により株数が減少するか生育状況を注視する必要がある。(宮崎一夫)



静岡市 2003年8月20日 宮崎一夫



シブカワニンジン *Codonopsis lanceolata* (Siebold et Zucc.) Trautv.
var. *omurae* T. Koyama

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

ツル性の多年草。ツルニンジンの変種である。葉は細く裏面に毛が密生する。花期は9~10月。花冠は筒状釣鐘形で先は5裂する。旧引佐町が基準産地である。

2. 分布

日本固有変種で、本州(東海地方、紀伊半島)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

主に蛇紋岩地帯に生育するが、それ以外にも見られる。

4. 生育状況

浜松市北区や浜松市天竜区などに生育する。蛇紋岩地帯を中心に生育し、産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が林道整備(24)や土地造成(23)などで消失する危険性がある。また、植生遷移の進行(54)で生育適地の減少も指摘される。

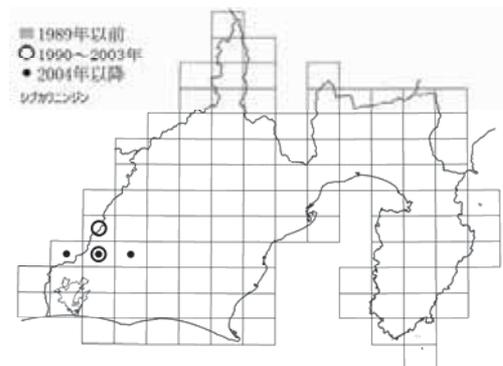
6. 保護対策

生育地の保護と間伐などの植生遷移の進行を抑制する対策も必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年9月17日 内藤宇佐彦



ミツガシワ *Menyanthes trifoliata* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

ミツガシワ科 Menyanthaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説 抽水性の多年草。高さ20~40cm。根茎は円筒形で太く径0.7~2.5cm、地中を這う。根出葉は互生して長柄があり3出葉で、やや肉厚で光沢がある。花期は4~8月。花茎は直立して20~30個の花を総状花序につける。苞は広卵形で長さ3~6mm。花冠は漏斗状で深裂して径1~2cm、白色で内面に毛がある。長柱花と短柱花がある。寒冷期の遺存種である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、シベリアなどに、国内では北海道、本州、九州北部に分布する。県内では東部、伊豆、西部に分布する。

3. 生育環境

多湿地や池沼の浅い水中から抜き出る。

4. 生育状況

産地は点在する。産量は少ない。生育状況は植生遷移の圧力を受けて、生育が衰退している。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の乾燥化と開発(15)が主要因である。温暖化による気候変動(71)も脅威である。

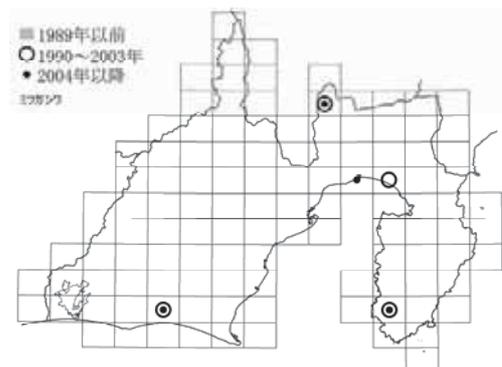
6. 保護対策

木道を敷設するなど踏圧の影響を軽減し、植生遷移を抑制するなど、生育環境を保全して維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市(植栽) 2010年3月29日 宮崎一夫



ホクチアザミ *Saussurea gracilis* Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~30 cm。茎は細く、葉は長三角形で、長さ 6~11 cm、下面は綿毛が密生して白色。花期は 8~10 月。頭花は紅紫色である。総苞は長さ 13~16 mm、幅 8~14 mm、多少くも毛がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

山地の日当たりのよい草原。

4. 生育状況

前回 (2004 年) の調査、今回の調査でも確認できなかった。

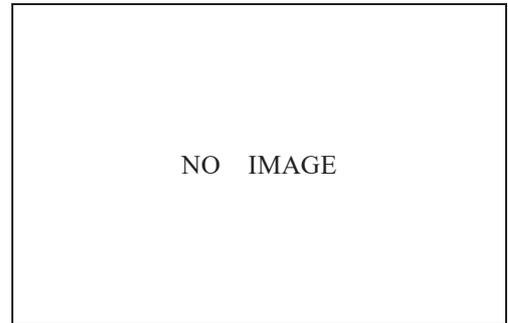
5. 減少の主要因と脅威

草原の管理放棄 (53) と植生遷移 (54) が減少の主要因である。

6. 保護対策

草原の維持と本種に適した管理を行うこと。

(湯浅保雄)



ハチジョウアキノキリンソウ *Solidago virgaurea* L. subsp. *leiocarpa* (Benth.)

Hultén var. *praeiflorens* Nakai

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~30 cm。葉は卵形で光沢があり厚い。花期は 8~12 月。頭花は茎の先に固まってつき、径 1~1.5 cm。花序の上部はほぼ平らになる。瘦果は無毛 (基本亜種のアキノキリンソウの瘦果は有毛)。

2. 分布

日本固有変種で、本州（関東地方、静岡県）、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆と熱海市初島に分布する。

3. 生育環境

海岸の岩場や岩礫地。

4. 生育状況

前回 (2004 年) の調査では 2ヶ所で確認されているが、今回は調査不足のためか確認できていない。

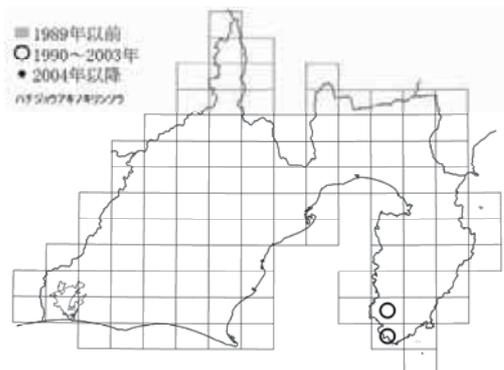
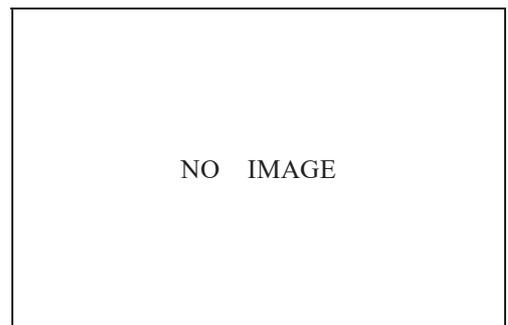
5. 減少の主要因と脅威

海岸の整備 (14) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地に立ち入って踏みつけないように対策を講じること。

(湯浅保雄)



リンネソウ *Linnaea borealis* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 分布上注目種等) 変更なし

スイカズラ科 Caprifoliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

矮性低木。高さ5~7 cm。茎は径1 mm、よく分枝し、長く地を這う。開出毛がある。葉は対生し、葉身は卵円形、基部は広くさび形。長さ4~12 mm。先に3~5個の鋸歯がある。両面に毛を散生。花期は7~8月。腺毛のある花茎を立て、上部で2分枝した先に1個ずつ花をつける。花冠は漏斗状鐘形で長さ8~10 mm。先は5裂して広がる。

2. 分布

国外ではロシア(サハリン、北クリール、カムチャツカ)、朝鮮半島北部、中国、モンゴル、シベリア、カフカズ、ヨーロッパ、アリューシャン、北アメリカ北西部に、国内では南千島、北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山の半陰地や亜高山帯針葉樹林の林床。

4. 生育状況

産地は限られており、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)や乾燥化(71)などの生育環境の変化が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地に立ち入らないような対策をし、踏みつけに注意すること。
(湯浅保雄)



長野県 2012年7月24日 宮崎一夫

